

公益社団法人日本看護科学学会
平成28年6月定例(定時)社員総会 議事録

日 時 平成28年6月19日(日) 11:00~12:45
場 所 AP東京八重洲通り
〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階
Tel. 03-6228-8109

総社員数：264名

出席社員数：232名(会場115名、委任状117名)

会場出席社員：青山ヒフミ、朝倉京子、天野瑞枝、荒木暁子、飯田苗恵、池添志乃、池松裕子、石橋みゆき、泉キヨ子、一戸とも子、岩永喜久子、上野栄一、上野恭子、内田陽子、宇都由美子、江川幸二、遠藤俊子、遠藤みどり、遠藤芳子、太田喜久子、大西文子、岡崎美智子、岡本玲子、小野幸子、掛田崇寛、金子昌子、叶谷由佳、亀井智子、河口てる子、河原宣子、北素子、工藤せい子、工藤美子、小板橋喜久代、洪愛子、河野あゆみ、国府浩子、小島操子、小林たつ子、小林康江、小松万喜子、小山真理子、近藤浩子、佐伯由香、佐々木幾美、定方美恵子、佐藤富美子、佐藤正美、佐藤禮子、正野逸子、新道幸恵、杉浦太一、鈴木久美、鈴木純恵、多喜田恵子、武村雪絵、田代順子、田中京子、田中美智子、谷本真理子、津島ひろ江、寺町芳子、泊祐子、中尾久子、中村恵子、中村美鈴、成田伸、西田直子、野地有子、野村陽子、乗松貞子、籀持知恵子、東サトエ、深田順子、深堀浩樹、藤原千恵子、法橋尚宏、堀内成子、本庄恵子、本田育美、眞壁玲子、増島麻里子、町浦美智子、松浦和代、松浦賢長、三国久美、宮子あずさ、宮腰由紀子、宮崎美砂子、百瀬由美子、森菊子、森田夏実、矢野理香、山内豊明、山勢博彰、山本あい子、吉田千文、吉田俊子、良村貞子、若村智子、渡邊タミ子、綿貫成明 (以上102名・50音順)

出席理事・監事：萱間真美、井上智子、麻原きよみ、勝原裕美子、鎌倉やよい、(うち11名社員) グレッジ美鈴、酒井郁子、高田早苗、西垣昌和、西村ユミ、村嶋幸代、山本則子、吉沢豊予子(以上理事)、阿曾洋子 南裕子(以上監事)

議長：萱間 真美(理事長)
議事録作成者：麻原 きよみ(総務担当理事)

I. 開会

開会時の会場出席者は正会員数60名、委任状提出者117名。本会定款第23条、24条に定められた要件を満たしているため、公益社団法人日本看護科学学会 平成28年6月定例(定時)社員総会は成立した。司会は井上智子副理事長、書記は竹森志穂(聖路加国際大学)、吉川めぐむ(日本看護科学学会事務所)で行なわれた。

II. 理事長挨拶

萱間真美理事長より以下の挨拶があった。

熊本地震の被害に遭われた方へのお見舞いと亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。東日本大震災後、本会としてどのような活動をしていくかを考えてきた。本日の議題にも挙がっているように、災害支援について引き続き検討していきたい。また、若手の会など研究・学術に関する活動は、引き続き活発に行っていきたい。学術集会もいろいろな企画や新しい提案がされて

きている。学会としては、常に新しいものを根づかせていくための役割を果たしていきたいと考えている。これについても様々な意見をいただきたい。

III. 第36回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

岡谷恵子学術集会会長より以下の挨拶があった。

第36回の学術集会は東京国際フォーラムで、12月10日、11日の2日間開催する。今回のテーマは、「制度設計と看護研究」ということで、看護の科学が社会の変革にどのように貢献していけるかということをご一緒に考えていきたい。また前回の広島に続きペーパーレス化を進めていくためにアプリの開発をしている。快適な良い学術集会にしたいと思っているので、参加、協力をお願いしたい。

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、議長に萱間真美理事長が選任された。

議事録署名人は、会場出席者から議事録署名人を募ったが、立候補がなかったため、議長より代議員の朝倉京子氏(東北大学大学院)と、鈴木久美氏(大阪医科大学)が推薦され、満場一致で承認された。

V. 報告事項

1. 理事会および社員総会報告 <麻原理事>

1) 理事会報告 議案書(pp3-8)に基づき報告がされた。

平成27年度理事会は6回行われ、臨時を2回開催した。理事会では必ず会員審査を行っている。また、委員会の事業の進捗状況を確認し審議をしている。

2) 社員総会 議案書(pp9-10)に基づき報告がされた。

- ・平成27年6月定例社員総会は、審議事項として、平成26年度決算の承認および会計監査の報告、役員選任案の承認、定款変更案の承認、名誉会員の承認がされた。
- ・平成27年12月社員総会は、審議事項として、平成28年度事業計画案の承認、平成28年度予算案の承認、第38回学術集会会長の承認が行われた。

2. 総務報告 <麻原理事>

議案書(p11)に基づき報告がされた。

会員推移は、平成27年4月1日正会員数7,528名、平成28年3月31日現在8,384名であった。正会員数は、平成26年度末の8,035名から平成27年度8,384名と順調に増加している。

[質疑応答]

特になし。

3. 平成27年度事業報告

議案書(pp14-21)に基づき、各担当理事より報告がされた。

(1) 第35回日本看護科学学会学術集会開催 <麻原理事>

第35回日本看護科学学会学術集会(JANS35)を小山真理子学術集会会長のもと、平成27年12月5日(土)から6日(日)の2日間、広島国際会議場、広島市文化交流会館、JMSアステールプラザにて開催した。参加者総数3,736名、演題数1,002題、交流集会45題、ランチョンセミナー8件、市民フォーラム参加者数約58名であった。

(2) 第 36 回・第 37 回日本看護科学学会学術集会準備 <麻原理事>

- ・第 36 回日本看護科学学会学術集会 (JANS36) を岡谷恵子学術集会会長のもと、平成 28 年 12 月 10 日 (土) から 11 日 (日) の 2 日間、東京国際フォーラムにて開催予定である。
- ・第 37 回日本看護科学学会学術集会 (JANS37) を吉沢豊予子学術集会会長のもと、平成 29 年 12 月 16 日 (土) から 17 日 (日) の 2 日間、仙台国際センター会議棟・展示棟にて開催予定である。

(3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage) <山本理事>

和文誌編集委員会を 2 回開催した。電子投稿システムを ScholarOne Manuscripts に変更したため、それに合わせてホームページの内容を変更した。平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日の投稿数は 76 編であった。第 35 巻随時掲載の論文数は計 30 編であり、論文公開時には会員に一斉メールを配信した。投稿数増加と査読作業の効率化を目的に、専任査読委員を増員し現在 259 名に依頼している。また、統計担当専任査読委員の制度を導入し、現在 28 名に依頼している。新電子投稿システムの変更に合わせ、JANS35 の前日の社員総会後に、杏林舎の担当者による説明会を実施した。JANS35 にて査読者の質向上を目的とした交流集会を開催し、約 150 名の参加者を得た。査読ガイドラインと投稿規程を更新し、ホームページに掲載した。機関リポジトリへの掲載依頼に対応した。

(4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley) <グレッグ理事>

編集委員の編成を行い、今期の編集委員は 27 名に依頼した。Holzemer 編集長来日のもと英文誌編集委員会を 2 回、Web 会議システムを用いた日本語での編集委員会を 1 回、Web による委員会小会議を 4 回開催した。既刊号については、平成 28 年 1 月より出版後 2 年のエンバーゴ以外無料閲覧に設定された。平成 27 年 1 月 1 日～12 月 31 日の論文投稿数は 327 編であった (前年は 237 編)。平成 26 年に引き続き、ジャーナル・プロモーションのために、平成 27 年に優秀賞を受賞した JJNS に掲載された論文をフリーアクセスとした。平成 27 年度の若手研究者支援事業は、支援対象論文 1 編を決定した。JJNS セミナーおよび JANS35 で、JJNS 投稿コンサルテーションを実施した。平成 28 年 1 月 1 日より COI Form をオンラインサイトからダウンロードできるようにし、全ての投稿者に提出を義務付け円滑に運用されている。平成 26 年度の impact factor は、0.388 と少し下がっている。

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討 <高田理事>

看護学学術用語検討委員会を 3 回開催した。本委員会にて検討された学術用語の利用実態を知るための Web 調査を 5 月 31 日を締め切りとして実施、分析中である。結果については改めて報告したい。看護学における学術用語及び概念開発に関する議論を、委員会から隔月で Web 等を通じて発信していく。現在、第 1 回の準備を進めている。

② 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む) <中山理事 (代読麻原理事) >

中山理事欠席のため、麻原理事が議案書(p16)を代読した。

国際活動推進委員会を 2 回開催した。「看護系大学院におけるグローバル化に関する対応状況調査」を平成 27 年 12 月に実施した。異文化看護データベースについては、JANS35 にて交流集会 (English Session) を開催しデータベースに協力できる会員を募った。現在、データベース入力の枠組みを作り、協力会員との連絡調整を始めるところにまで進んでいる。

第 4 回 WANS 学術集会は、ドイツの Hannover において ENDA と共同で開催した。WANS の次期 chairperson については、JANS から南裕子現理事長の継続 (推薦) を提案した。

第 5 回 WANS 学術集会は、平成 29 年 10 月 23 日～25 日、Bangkok で開催することが決定

し、WANS 事務局(国際活動推進委員会)と共同で準備を進めていくことになった。

③ 看護倫理の検討と啓発

学術活動の利益相反 (COI) に関する指針および細則の施行 <吉沢理事>

利益相反委員会を1回開催し、平成27年度の役員・委員会メンバーのCOI申請における、書類の不備や申請内容を検討した。平成28年度に向けて英語版COI指針・細則、申請書作成の準備を行うこととなった。学術集会演題登録時の倫理申請はCOIの有無のチェックを第一段階として行うが、これを電子署名に変更してはどうかとの案が提案され、来年度に向けての検討事項となった。

看護倫理検討委員会 <鎌倉理事>

看護倫理検討委員会を3回開催した。研究者が研究活動における不正防止及び倫理の遵守に関して、どのように実行しているのかという調査を、会員にメールで通知しWeb上で回答する方法にて現在実施中である。会員にリマインドを送っているが、まだ回答数が少ないため回答をお願いしたい。また、結果は今年の学術集会の交流集会で報告し、ディスカッションすることを予定している。

研究倫理審査委員会 <井上副理事長>

1件の申請があり、簡易審査に該当したため、メール会議において承認した。

④ 研究成果の蓄積と活用 <酒井理事>

研究・学術情報委員会を2回開催し、看護学領域において優先して取り組むべき研究課題を設定することを今期の重点活動として計画中的である。他領域の研究優先課題設定状況をレビューし、設定方法について検討した。

(6) 学術研究論文の表彰 <真田理事(代読山本理事)>

真田理事欠席のため、山本理事が議案書(p17-18)を代読した。

表彰論文選考委員会を1回、メール会議を2回開催した。優秀賞2編、奨励賞2編を決定し、理事会(10月25日)に報告し、承認を得た。

(7) 学会組織の強化・発展

① 若手研究推進委員会の活動の推進 <西村理事>

若手研究推進委員会を対面式で3回、Web会議を1回開催した。JANS若手のHPを作成し、JANS本体のHPに組み込む形で公開した。JANS35では、交流集会を開催した。オフ会も開催し多くの若手の参加があった。若手の研修ニーズ調査についてWebアンケートを2月に実施・終了した。和文誌でも公表する予定である。

メーリングリストを活用し、情報発信と意見交換を行っており、現在メンバーは400名以上となっている。各地域での若手の活動拠点を作るために、エリアコーディネーターの育成準備を行っている。

② JANS セミナー <酒井理事>

第6回JANSセミナーを平成27年6月21日に開催し、参加者は218名であった。

第7回JANSセミナーを平成28年3月26日に開催し、会場参加者218名、Web参加者190名であった。JANSセミナーのアーカイブ化及びオンデマンドについて検討を開始し、今年度中に構築する予定である。

③ JJNS セミナー <グレッグ理事>

平成 27 年 11 月に JJNS セミナーを初めて大阪で開催した。東京に比べて、参加登録の開始が遅めだったが、202 名の参加があり好評だった。今後も関西での開催を検討したい。

(8) 社会貢献活動 <吉沢理事>

社会貢献委員会を 1 回開催した。JANS35 にて「市民フォーラム」「ナーシング・サイエンス・カフェ」を開催し好評に終わった。JANS36 では、市民フォーラムは「身終り(みじまい)～人生の終え方～(案)」というテーマで、遺品整理という点から講演をしていただく講師 2 名を計画している。ナーシング・サイエンス・カフェは、テーマが議案書と少し変更し、「看護を志向するあなたへ～看護職の多様な働き方紹介します～」として、海外で活動している人、企業で活動している人、起業した人、公益の場で働いている人の 4 名の方に話してもらう方針としている。また、ナーシング・サイエンス・カフェに、どのように開催しているかを知りたい、オブザーバーでもよいので参加したいという問い合わせがあった。会場の大きさを考慮しながら、会員限定として参加していただく方向で検討している。

(9) 広報活動 <勝原理事>

広報委員会を 3 回、メール会議を複数回行った。学術集会企画委員会と連携し、プレスリリースの作成、報道機関への広報等を行った。また、社会貢献委員会との連携で、市民フォーラムやナーシング・サイエンス・カフェの広報媒体の作成・配布を行った。学会 HP の充実のため、随時内容の更新、整理を行っている。

(10) 災害看護支援事業（日本看護系学会協議会との共同事業による）<中山理事(代読井上副理事長)>

中山理事欠席のため、井上副理事長が議案書(p20)を代読した。

東日本大震災の援助活動を支援するために開始された、災害看護支援金による助成事業は、平成 27 年度をもって終了することを決めた。平成 27 年度「災害看護支援金による事業完了報告書」は平成 28 年 3 月に提出され、専門委員会は 2 つの事業が適切に実施されたことを確認した。事業の助成額は各 35 万円、合わせて 70 万円であった。助成事業の終了により「災害看護支援事業専門委員会」は、5 年間の活動をもって終了するが、今後、災害等の緊急事態が発生した場合は、臨時委員会を組織するなどして対応していく。支援事業については HP 等で報告していく予定である。

(11) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会 <萱間理事長>

平成 27 年 6 月 30 日（火）、平成 27 年度総会が日本赤十字看護大学広尾キャンパスで開催され、理事長が出席した。役員の変更結果について説明があり、新役員が紹介された。医療事故報告制度に関する学会の役割について厚生労働省の担当者から説明があり、各学会に今後の本制度への対応について依頼があった。

② 看護系学会等社会保険連合 <西垣理事>

平成 27 年度は理事会 8 回、社員総会 1 回、看護技術検討委員会 2 回、診療報酬及び介護報酬のあり方に関する検討委員会 1 回が開催された。看保連の加盟は、現在 49 の団体で構成されている。平成 27 年度の研究助成件数は 5 件で、本会からの推薦を受けた研究も含まれている。平成 28 年度も本会から 1 件推薦している。

③ 日本学術会議 <井上副理事長>

日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関 <井上副理事長>

第2回山上の光賞に近藤潤子氏を推薦し、近藤潤子氏が「看護・保健部門」の受賞者に選出された。

【事業報告に関する質疑】

- <質問> 学会誌の投稿数について和文76件、英文はその3倍あるが、採択数や表彰については和文が多い。その傾向について教えていただきたい。
- <回答1> 優秀論文の表彰については、JANSの会員であることを前提としている。英文誌の投稿については会員であることの規定がないため、その影響があると思われる。
(山本理事)
- <回答2> 配布資料「日本看護科学学会の公益性について」の2ページ目に、投稿数と掲載数の割合を載せている。一番上に日本があるが、投稿数は57件・17.7%でそれほど高くはないが、掲載率は42.6%である。そのため和文誌の論文が多くなると思われる。
(グレッグ理事)
- <質問> 議案書p20の災害看護支援事業について、災害時等の緊急事態が発生した場合は臨時委員会を組織するとされているが、今回の熊本地震についてはどのようにするのか。
- <回答> 2号議案で検討する予定である。今後についてはそこで意見を頂戴したい。今回の熊本地震の後に、今年度の学術集会への演題応募等について検討することを会員へメールで知らせ、演題期日を延長することとなった。臨時委員会については、2号議案審議後に必要な支援等を会員の皆様に伺っていきたいと考えている。意見があれば伺いたい。(萱間理事長)
- <応答> 具体的な案はない。ぜひ検討いただければと思う。
- <回答補足> 災害看護支援事業専門委員会は、東日本大震災の発生の際に、日本看護系学会協議会のもとで進められた支援事業であった。しかし、当時日本看護系学会協議会が法人化していなかったため、法人化していた本会が窓口となる形で進めてきたその後、日本看護系学会協議会も体制が整い、様々な学会を傘下においているということで、当初の形での活動は終わったのではないかと考え、昨年度で締めることを検討していた。その総会までの過程で、熊本地震が発生したため、災害看護支援事業専門委員会で活動した方が良いのではないかと意見も出された。しかし、主旨が違うので支援事業としては一度寄付等の金銭に関することも終了し、改めて本会または日本看護系学会協議会との連携の上でできることをしていくという方向になっている。閉じてしまって、今後何もしないということではない。
(井上副理事長)

VI. 審議事項

第1号議案 平成27年度決算の承認および会計監査の報告<村嶋理事>

平成27年度決算について、議案書(pp22-35)と資料「日本看護科学学会の公益性について」に基づき説明された。

先に「収支計算書」(pp32-33)を使って説明があった。※1-27の内容はp34を参照のこと。災害看護に関するものは、特定資産としてp35に掲載する。

「事業活動収入」について差異が多い部分を重点的に説明する。会員収入は83,290,000円であり、平成27年度の会費納入率は96.8%となり、95%を超えているためかなり良好である。

賛助会員は5社で変更はない。学会誌収入は、和文誌の無料公開により定期購読の減収を見込んでいたが、非会員(図書館等と思われる)の定期購読が意外に多く想定を上回った。学術集会(第35回)は、参加者が見込みより多かったため増収となった。以上あわせ事業活動収入合計は138,744,240円である。

これに対し「事業活動支出」は、和文誌発行費支出が予算を上回った。これは、編集業務と電子投稿査読システムの変更に伴うものである。英文誌は大幅な予算超過となった。その理由は投稿数の伸びにある。英文誌の費用は1件の投稿に対して払われるため、投稿数の伸びが費用増につながる。現在、中東からの投稿数が増えている。必ずしも採択にはつながらないが、公益性という観点から発展途上国からの投稿機会を提供していることは、非常に意味のあることなので、それを制限せずにやり繰りしていくことを考えたい。

学術集会(第35回)の支出は、参加者増にともない増加した。事業費は80,312,657円である。管理費は47,914,772円である。事業活動支出合計は128,227,429円で、収支差額は10,516,811円の黒字となった。

次に「貸借対照表」(p22)及び「貸借対照表内訳表」(p23)について説明があった。

資産合計は123,746,108円、負債合計は26,232,212円であった。基金を含む正味財産合計は97,513,896円、負債及び正味財産合計は123,746,108円となった。

「貸借対照表内訳表」(p23)は、貸借対照表を「公益目的事業会計」「収益事業等会計」「法人会計」に分類した表である。

続いて「正味財産増減計算書」(pp24-25)について説明があった。これは財産がどれだけ増減したかを示すものである。

I. 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部の経常収益は、「事業収益(学会誌・学術集会・広告販売)」「受取寄付金」「雑収益(セミナー収益含む)」を合わせ、経常収益計140,284,206円となった。

経常費用事業費の「和文誌発行費」は、オンライン化で経費が削減され5,505,693円であった。「英文誌発行費」は、投稿が昨年より増えたため編集事業費が増加した。事業費の「給料手当」は増加しているが、管理費と配分を変えたためである。以上を含めた事業費計は102,756,559円であった。管理費計27,939,078円、経常費用計130,695,637円で、当期経常増減額は、9,588,569円となっている。

2. 経常外増減の部

経常外収益と経常外費用を合せて、当期一般正味財産増減額は9,483,206円であり、これが当期の純利益となる。

II. 指定正味財産増減の部

指定正味財産期末残高は、78,472円であった。

III. 基金増減の部

基金期首残高、期末残高ともに動きはなかった。

IV. 正味財産期末残高 97,513,896円であり、前年度に比べて 8,843,240円の増となった。

以上の内訳が「正味財産増減計算書内訳表」pp26-27であり「公益目的事業」「収益事業等」「法人会計」に区分している。正会員受取会費(83,890,000円)を「公益目的事業会計」と「法人会計」で5:5に分ける。

経常収益は、経常収益計で公益目的事業会計90,929,806円、収益事業等会計6,705,340円、法人会計42,649,060円が計上された。

経常費用は、公益目的事業会計101,526,029円、収益事業等会計1,230,530円、法人会計27,939,078円で、それぞれの収益から費用を引いたものが当期経常増減額であり、公益事業

は10,596,223円の赤字である。

これに対し収益事業は5,788,917万円で、これを繰り入れ、公益目的事業会計当期一般正味財産増減額は5,082,393円の赤字となる。法人税としては70,000円のみ納付となった。すべてを合せて、正味財産期末残高は97,513,896円となった。詳細はpp28-31参照。

災害看護支援事業収支報告書について

資料(p35)に基づき報告があった。

前年度より繰越 718,438円、本年度収入合計 60,034円を合せたものが、平成27年度の収入である。支出は2件 700,000円。口座に残っている残金は 78,472円である。

[平成27年度決算承認について質疑]

質問、意見なし。

監査報告書 <南監事>

議案書(pp36-38)に基づいて以下の報告があった。

1)独立監査人の監査報告

独立監査人による監査報告が読み上げられ、説明された。

議案書(pp37-38)に基づき、学会監事の監査を行った。

2)監事による監査報告

議案書(p36)の監査報告書に基づき報告された。

事業報告等の監査結果は、事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認める。監事としては、特に法令・定款および社員総会で認められたことに重きを置いて理事会に臨んでいる。

財務諸表の監査結果は、法人の財産及び損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

上記の内容について、平成28年5月6日に監事2名が署名をした。

[監査報告について質疑応答]

<質問> 監査報告書と独立監査人の監査報告書について、署名ではなく印影省略になっているが、署名のあるものは保管されているのか。また、このような形式になった時期と理由を教えてください。

<回答> 印影を省略するようになったのは5年位前からで、理由としてはスキヤンの技術が進歩し、印影をスキヤンされてしまう危険があると認識したためである。当初は、ホームページにアップする際に消していたが、現在は総会時の書類から印影を省略することになっている。自筆署名については事務所で保管している。

(竹市事務所職員)

第1号議案は承認された。

第2号議案 災害看護支援事業資金取崩の承認 <萱間理事長>

議案書(p39)に基づいて説明された。

募金活動を終了するに当たり、預金残高の78,472円をどうするか、検討していただきたい。JANAの募金口座への寄付という提案もあったが、公益法人の場合は、寄付の相手は公益法人に限られるという法律があるため、公益社団法人熊本県看護協会に寄付するのが最も役立っていただけるのではないかと考えた。熊本県看護協会は、震災の直後から様々な専門職に向けてのプログラムや人材派遣に取り組んでおり、そのことに役立っていただくために寄付す

ることを提案したい。なお、ここで承認いただければ、JANAの理事会でもこれを受けて承認していただくという形で進める。

[第2号議案について質疑応答]

質問、意見なし。

第2号議案は、公益社団法人熊本県看護協会への全額寄付に賛成多数で承認された。

第3号議案 名誉会員の承認 <萱間理事長>

議案書(pp40-42)に基づき説明された。

定款上の規程と理事会の申し合わせに基づき、本年は、近藤潤子先生と矢野正子先生を名誉会員として推薦申し上げたい。

[第3号議案について質疑応答]

質問、意見なし。

第3号議案は、賛成多数で承認された。

VI. その他

[質疑応答]

- <意見> 看護の研究が進み、数多くの報告がされるようになったが、看護現場での活用が少ないのではないかと考えている。学術集会でも、現場の看護師と学会の研究をつなげていくような場があるとよいのではないか。現場の人とコミュニケーションがとれるような場を学会として企画していただければと思う。
- <回答1> 学術集会でもそのような場の必要性が検討されている。具体的にどのようにしていくかは、今後検討が必要と考えている。(萱間理事長)
- <回答2> まだ理事会に挙げていないため検討段階であるが、看護学がエビデンスに基づいて発展してきたものを、現場に生かすためのトランスレーションの役割を広報委員会として行わなければいけないと考え、具体的な案について検討している。また理事会で相談しながらお知らせしていければと思っている。(勝原理事)
- <回答3> 看保連との連携活動として、研究知見をガイドラインに落とし込んでいき、研究結果が臨床ベースに入るように進める方向である。各学会でガイドラインを整備しているため、それを集約する形で見やすいものにしていきたい。また、現場の臨床家の方々にJANSの会員になっていただくような企画も重要だと考えている。(酒井理事)
- <意見> 学会は現場の人にとっては敷居が高いので、身近に感じてもらえるように、公開講座など会員にならなくても情報を得られ、つなげていけるようなものを検討してはどうか。
- <回答> 引き続き検討していきたい。(萱間理事長)
- <質問> 公益法人としての内部統制について、担当の理事がいるのか、或いは内部統制報告書などが義務付けられているのか、など教えていただきたい。
- <回答> 現在、本学会では内部統制委員会を持っていないが、その点は課題だと考えている。(井上副理事長)

VII. 閉会

萱間理事長より、兼ねてより病氣療養中であった名誉会員の兼松百合子先生が6月15日にご逝去された旨の報告があった。ご冥福をお祈りし、黙禱を捧げた。

出席者は本学会全社員264名中、会場参加者数115名、有効委任状117名で、有効出席者数232名であったことが報告され、平成28年6月定例(定時)社員総会を閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、記名押印する。

平成28年9月9日

議 長 萱間 真美 ④

議事録署名人 朝倉 京子 ④

議事録署名人 鈴木 久美 ④

④

④

④

公益社団法人日本看護科学学会 平成28年6月定例社員総会 議案書

日 時 平成 28 年 6 月 19 日 (日) 11 : 00 ~ 13 : 30 (予定)

場 所 AP 東京八重洲通り

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階

Tel. 03-6228-8109

【議事次第】

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第36回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会および社員総会報告

2. 総務報告

3. 平成 27 年度事業報告

(1) 第 35 回日本看護科学学会学術集会開催

(2) 第 36 回・第 37 回日本看護科学学会学術集会準備

(3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage)

(4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討

② 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む)

③ 看護倫理の検討と啓発

・学術活動の利益相反 (COI) に関する指針および細則の施行

④ 研究成果の蓄積と活用

(6) 学術研究論文の表彰

(7) 学会組織の強化・発展

① 若手研究推進委員会の活動の推進

② JANS セミナー

③ JJNS セミナー

(8) 社会貢献活動

(9) 広報活動

(10) 災害看護支援事業 (日本看護系学会協議会との共同事業による)

(11) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合

③ 日本学術会議

④ その他の機関

VI. 審議事項

第1号議案 平成27年度決算の承認および会計監査の報告

第2号議案 災害看護支援事業資金取崩の承認

第3号議案 名誉会員の承認

VII. その他

VIII. 閉会

公益社団法人日本看護科学学会 役員・社員

(平成 28 年 5 月 22 日現在)

理事長 萱間 真美

副理事長 井上 智子

理事：麻原きよみ、勝原裕美子、鎌倉やよい、グレッグ美鈴、酒井 郁子、
真田 弘美、高田 早苗、中山 洋子、西垣 昌和、西村 ユミ、
村嶋 幸代、山本 則子、吉沢豊予子

監事：阿曾 洋子、南 裕子

名誉会員：飯田澄美子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、兼松百合子、
川嶋みどり、小玉香津子、中島紀恵子、林 滋子、樋口 康子、日野原重明、
前原 澄子、松野かほる、山崎 智子

賛助会員：(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(有)ヌーヴェルヒロカワ、
(株)へるす出版

(以上、五十音順)

日本看護科学学会学術集会会長

第 36 回学術集会会長

岡谷 恵子

第 37 回学術集会会長

吉沢豊予子

第 38 回学術集会会長

佐伯 由香

社員

【北海道】

石垣 靖子
稲葉 佳江
大日向 輝美
河口 てる子
河原田まり子
荃津 智子
中村 恵子
松浦 和代
三国 久美
矢野 理香
山田 律子
良村 貞子

【東北】

朝倉 京子
一戸 とも子
遠藤 芳子
小野 幸子
工藤 せい子
佐藤 富美子
塩飽 仁
武田 淳子
武田 利明
原 玲子
布施 淳子
古瀬 みどり
眞壁 玲子
宮下 光令
吉沢 豊予子
吉田 俊子

【関東A】

飯田 苗恵
岩永 喜久子
上野 恭子
内田 陽子
角田 直枝
金子 昌子
加納 尚美
川口 孝泰
神田 清子
近藤 浩子
佐藤 正美
佐藤 由美
鈴木 純恵
中村 美鈴
成田 伸
春山 早苗

廣瀬 規代美
福島 道子
森 千鶴
横山 京子
吉田 久美子

【関東B】

青木 きよ子
荒木 暁子
荒木田美香子
石井 邦子
石橋 みゆき
太田 喜久子
大塚 眞理子
叶谷 由佳
黒田 久美子
黒田 裕子
酒井 郁子
坂上 明子
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
諏訪 さゆり
田高 悦子
谷本 眞理子
手島 恵
長江 弘子
野地 有子
正木 治恵
眞嶋 朋子
増島 麻里子
宮崎 美砂子
宮脇 美保子
森 恵美
吉田 千文

【東京A】

麻原 きよみ
泉 キヨ子
井上 智子
井部 俊子
及川 郁子
上別府 圭子
亀井 智子
萱間 眞美
齋藤 やよい
眞田 弘美
武村 雪絵
田代 順子
永田 智子

西村 ユミ
深堀 浩樹
堀内 成子
前田 樹海
丸 光恵

森田 夏実
山本 則子

【東京B】

秋山 正子
飯野 京子
柏木 公一
香春 知永
川野 雅資
北 素子
洪 愛子
佐々木 幾美
佐藤 紀子
志自岐 康子
高田 早苗
武田 祐子
鶴田 恵子
野末 聖香
平野 かよ子
福井 トシ子
本庄 恵子
宮子 あずさ
守田 美奈子
吉田 みつ子
綿貫 成明

【甲信越】

浅川 和美
阿部 正子
遠藤 みどり
小林 たつ子
小林 康江
定方 美恵子
清水 嘉子
水野 恵理子
渡邊 タミ子
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子
上野 栄一
川島 和代
紺家 千津子
須釜 淳子
平松 知子

牧野 智恵

【東海】

會田 信子
足立 はるゑ
足立 久子
天野 瑞枝
池松 裕子
岩瀬 信夫
太田 勝正
大津 廣子
大西 文子
岡田 由香
門間 晶子
鎌倉 やよい
紙屋 克子
北山 三津子
黒江 ゆり子
小島 操子
小松 万喜子
杉浦 太一
鈴木 みずえ
多喜田 恵子
深田 順子
古田 加代子
本田 育美
村本 淳子
百瀬 由美子
柳澤 理子
山内 豊明
山田 紀代美

【近畿A】

青山 ヒフミ
阿曾 洋子
荒尾 晴恵
安藤 幸子
上野 昌江
江川 幸二
小笠原 知枝
北村 愛子
工藤 美子
グレッグ美鈴
河野 あゆみ
坂下 玲子
佐藤 禮子
清水 安子
鈴木 久美
鈴木 志津枝

高見沢恵美子
田中 京子
泊 祐子
檜木野 裕美
簀持 知恵子
早川 和生
林 優子
藤原 千恵子
法橋 尚宏
増野 園恵
町浦 美智子
松田 宣子
森 菊子
山本 あい子

【近畿B】

江川 隆子
遠藤 俊子
岡山 寧子
桂 敏樹
我部山キヨ子
河原 宣子
北島 謙吾
小板橋喜久代
田村 恵子
中木 高夫
西田 直子
任 和子
野村 陽子
若村 智子

【中国・四国】

秋元 典子
池添 志乃
植田 喜久子
岡本 玲子
雄西 智恵美
掛田 崇寛
國方 弘子
小山 眞理子
佐伯 由香
島内 節
新道 幸恵
祖父江 育子
竹崎 久美子
田中 マキ子
近田 敬子
津島 ひろ江
時長 美希

中西 純子
中野 綾美
中山 洋子
西田 真寿美
乗松 貞子
深井 喜代子
藤田 佐和
保科 英子
南 裕子
宮腰 由紀子
宮下 美香
森本 美智子
森山 美知子
山勢 博彰

【九州・沖縄】

宇佐美しおり
宇都 由美子
浦田 秀子
大池 美也子
岡崎 美智子
奥 祥子
小野 ミツ
嘉手苺 英子
木下 由美子
金城 芳秀
国府 浩子
佐藤 香代
正野 逸子
田中 美智子
堤 由美子
寺町 芳子
中尾 久子
鳩野 洋子
東 サトエ
日高 艶子
藤崎 郁
藤田 君支
前田 ひとみ
松浦 賢長
松尾 ミヨ子
三重野 英子
村嶋 幸代

以上、264名
地区別
五十音順

公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

平成27年度第1回理事会

日時：平成27年5月10日（日） 13:00～17:40

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事14名、監事2名、第34回学術集会会長、第35回学術集会会長、選挙管理委員会委員長

〈報告事項〉

- ・ 平成26年度第6回理事会議事録
- ・ 平成27年3月書面理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第35回日本看護科学学会学術集会（JANS35）の準備状況
2. 第36回日本看護科学学会学術集会（JANS36）の準備状況
3. 選挙報告
4. 平成27年6月定例社員総会について
 - 1) 平成27年定例社員総会資料の確認
 - ① 平成26年度事業報告の承認
 - ② 平成26年度決算の承認
 - ③ 役員選任案の承認
 - 2) 議事進行および役割分担の確認
5. 新名誉会員の推薦について
6. 定款変更案（第38条 理事会の議事録）の承認
7. 日本看護系学会協議会平成27年役員選挙での投票についての報告
8. Medical Online 企業向け著作権権利許諾について
9. 第1回日本混合研究法学会 国際学術集会の協賛について
10. 会計に関する申し合わせの変更案
11. 各委員会における今年度予算執行状況
12. 各委員会からの報告および審議事項
 - 1) 総務委員会（総務正職員1名の採用について）
 - 2) 和文誌編集委員会
 - 3) 英文誌編集委員会
 - 4) 研究・学術情報委員会
 - 5) 国際活動推進委員会
 - 6) 看護学学術用語検討委員会
 - 7) 看護倫理検討委員会
 - 8) 社会貢献委員会
 - 9) 表彰論文選考委員会

- 10) 広報委員会
- 11) 研究倫理審査委員会
- 12) 災害看護支援事業専門委員会
- 13) 学術振興事業検討委員会
- 14) 若手研究推進委員会
- 15) 他団体との連携について
 - ・ 日本看護系学会協議会、日本学術会議
 - ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）

13. 入会希望者の承認

14. その他

- ・ 名誉会員 中西睦子先生の訃報について

平成 27 年度第 2 回理事会

日 時：平成 27 年 6 月 21 日（日） 9：00～10：30

場 所：AP 東京八重洲通り 11 階 O ルーム

（〒104-0031 東京都中央区京橋 1 丁目 10 番 7 号 KPP 八重洲ビル 11 階）

出席者：理事 12 名、監事 2 名

〈報告事項〉

- ・ 平成 27 年度第 1 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 平成 27 年 6 月定例社員総会について
 - 1) 平成 27 年定例社員総会資料の確認
 - 2) 議事進行および役割分担の確認
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会（JANS34）における抄録掲載後の取下げについて
3. 和文誌の受益者負担冊子と定款について
4. 各委員会における事業の進捗状況
5. 入会希望者の承認

平成 27 年度臨時理事会

日 時：平成 27 年 6 月 21 日（土） 18：00～18：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 10 名

〈審議事項〉

理事長（代表理事）、副理事長の選定の承認

平成 27 年度臨時理事会

日 時：平成 27 年 7 月 25 日（土） 13：00～15：10

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 10 名、監事 2 名、第 36 回学術集会会長

〈報告事項〉

- ・ 学術振興事業検討委員会報告書

〈審議事項〉

1. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 今後の理事会・平成 28 年 6 月定例社員総会日程について
3. 定款施行細則変更案の承認
4. 会務分掌案および委員の承認
5. 平成 27 年度予算案の確認（各委員会予算を含む）
6. 各委員会からの報告および審議事項
 - 1) 総務委員会
 - 2) 和文誌編集委員会
 - 3) 英文誌編集委員会
 - 4) 研究・学術情報委員会（第 6 回 JANS セミナーの報告含む）
 - 5) 国際活動推進委員会
 - 6) 看護学学術用語検討委員会
 - 7) 看護倫理検討委員会
 - 8) 社会貢献委員会
 - 9) 表彰論文選考委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 研究倫理審査委員会
 - 12) 災害看護支援事業専門委員会
 - 13) 若手研究推進委員会
 - 14) 利益相反委員会
 - 15) 他団体との連携について
 - ・ 日本看護系学会協議会（医療事故調査等支援団体に関する申し出について）
 - ・ 日本学術会議
 - ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）
7. 入会希望者の承認
8. その他
 - ・ 定款の変更点について

平成 27 年度第 3 回理事会

日 時：平成 27 年 9 月 20 日（日） 13：00～16：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 10 名、監事 2 名、第 35 回学術集会会長、第 36 回学術集会会長

〈報告事項〉

- ・ 平成 27 年度第 2 回理事会議事録
- ・ 平成 27 年度臨時理事会議事録
- ・ 平成 27 年度 6 月定例社員総会議事録

〈審議事項〉

1. 第 35 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 38 回日本看護科学学会学術集会（JANS38）会長の候補者選出
4. 12 月社員総会の議事次第（案）と欠席者の議決権行使方法についての確認
5. 第 35 回学会総会の議事次第（案）の確認
6. JANS34 における演題取り下げ事例への対応について
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 世界看護科学学会（WANS）理事会出席者について
9. 「看護研究」誌特集号について
10. 入会希望者の承認

平成 27 年度第 4 回理事会

日 時：平成 27 年 10 月 25 日（日） 13：00～17：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 36 回学術集会会長

〈報告事項〉

平成 27 年度第 3 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 35 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 38 回日本看護科学学会学術集会会長の承認
4. 各委員会からの報告および審議事項
5. 各委員会における平成 28 年度事業計画案と平成 28 年度予算案
6. 12 月社員総会の議案の承認および進行分担表の確認
 - 1) 社員総会の開催について
 - 2) 平成 28 年度事業計画案の承認
 - 3) 平成 28 年度予算案の承認

7. 事務所体制について
8. 第35回学会総会の資料（案）および進行分担表の確認
9. 入会希望者の承認

平成27年度第5回理事会

日時：平成27年12月4日（金） 15：00～17：00

場所：リーガロイヤルホテル広島 4階 竹の間 （広島市中区基町6-78）

出席者：理事14名、監事2名、第36回学術集会会長

〈確認事項〉

- ・ 平成27年度第4回理事会議事録（案）
- ・ 平成28年度各委員会事業計画・予算（確定版）

〈審議事項〉

1. 第36回日本看護科学学会学術集会の準備状況
「協賛企業広告の掲載方法について」
2. 平成27年12月社員総会議案の承認および進行分担表の確認
 - ・ 平成28年度予算案の承認
 - ・ 12月社員総会進行分担表の確認
3. 第35回学会総会資料および進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 来年度の理事会日程について
6. 入会希望者の承認

平成27年度第6回理事会

日時：平成28年2月21日（日） 13：00～16：40

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事14名（Web参加1名）、監事1名、

第35回学術集会会長、第36回学術集会会長、第37回学術集会会長

〈報告事項〉

- ・ 平成27年度第4回理事会議事録
- ・ 平成27年度第5回理事会議事録
- ・ 平成27年12月社員総会議事録
- ・ 第35回学会総会議事録

〈審議事項〉

1. 第35回日本看護科学学会学術集会報告
2. 第36回日本看護科学学会学術集会の準備状況

3. 第37回日本看護科学学会学術集会（JANS37）の進捗状況
4. 平成28年度理事会日程調整について
5. 各委員会からの報告および審議事項
 - ・ 会員管理正職員1名の採用について
6. 就業規則、給与規程、慶弔規程、総務会についての申し合わせ変更案
7. 各委員会の子算執行状況について
8. 平成27年度決算見込みと会費配分率の決定について
9. 平成28年6月定例社員総会の開催について
 - ・ 6月定例社員総会の議事次第（案）と欠席者の議決権の行使方法について
10. 入会希望者の承認

公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

平成 27 年 6 月定例社員総会

日 時 平成 27 年 6 月 21 日 (日) 11:00～13:30

場 所 AP 東京八重洲通り

東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階 Tel. 03-6228-8109

総社員数: 264 名

出席社員数: 230 名 (うち委任状 108 名)

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 第35回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶
- IV. 議長指名および議事録署名人の承認
- V. 報告事項
 1. 理事会および社員総会活動状況
 2. 総務報告
 3. 選挙管理委員会報告
 4. 平成 26 年度事業報告
 - (1) 第 34 回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第 35 回・第 36 回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage) 十年 1 回合本版
 - (4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)
 - (5) 看護学学術振興対策
 - ① 看護学学術用語の検討
 - ② 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む)
 - ③ 看護倫理の検討と啓発
 - ④ 研究成果の蓄積と活用
 - (6) 学術研究論文の表彰
 - (7) 学会組織の強化・発展
 - ① 若手研究者育成のための新規事業
 - ② JANS セミナー
 - ③ 学術振興事業の検討
 - ④ 学会誌の電子化
 - ⑤ 選挙の電子化
 - ⑥ 委員会等の遠隔会議システムの導入
 - (8) 社会貢献活動
 - (9) 広報活動
 - (10) 災害看護支援事業 (日本看護系学会協議会との共同事業による)
 - (11) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の機関
 - (12) 平成 27 年選出代議員選挙実施、平成 27 年選出役員候補者選挙準備
- VI. 審議事項
 1. 平成26年度決算の承認および会計監査の報告
 2. 役員選任案の承認
 3. 定款変更案の承認
 4. 名誉会員の承認
- VII. その他
- VIII. 閉会

平成 27 年 12 月社員総会

日 時 平成 27 年 12 月 4 日 (金) 17 : 30 ~ 20 : 00

場 所 リーガロイヤルホテル広島 3 階 瀬戸

広島市中区基町6-78 TEL: 082-502-1121

総社員数 : 264 名

出席社員数: 188 名 (うち委任状 94 名)

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第35回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案 平成28年度事業計画案の承認

第2号議案 平成28年度予算案の承認

第3号議案 第38回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 閉 会

総務報告

1. 会員推移（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

1) 正会員数増減

①平成27年4月1日正会員数

7,528名＝平成27年3月31日正会員数 8,035名 － 平成27年度資格喪失者 507名
 （自主退会204名、会費未納303名）

②平成27年度の入会者

861名＝新規入会772名 ＋ 再入会89名

③平成27年度の死亡喪失者 3名

④会員区分の変更 2名（正会員から名誉会員）

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員増減

平成27年度承認

増 3名
減 1名

金川 克子 川嶋みどり 前原 澄子
中西 睦子

4) 平成28年3月31日現在 会員数

正会員 8,384
名誉会員 15

山崎 智子 松野かほる 氏家 幸子 兼松百合子 林 滋子
飯田澄美子 日野原重明 稲岡 文昭 樋口 康子 薄井 坦子
中島紀恵子 小玉香津子 金川 克子 川嶋みどり 前原 澄子
 (株)医学書院 (株)へるす出版 (株)南江堂
 (株)日本看護協会出版会 (有)ヌーヴェルヒロカワ

賛助会員 5
会員総数 8,404

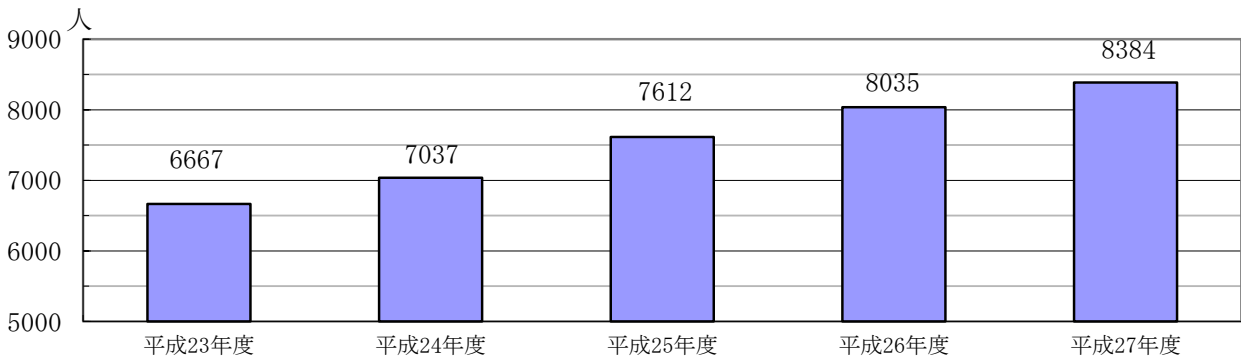
2. 地区別正会員数（平成28年4月1日 会員数 7,902名）

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道	北海道	346	北陸	富山	44	九州・沖縄	福岡	394	
				石川	113		佐賀	46	
東北	青森	123	東海	福井	58		長崎	51	
				岩手	58		熊本	79	
				宮城	134		大分	59	
				秋田	64		宮崎	59	
				山形	61		鹿児島	42	
				福島	37		沖縄	89	
関東A	茨城	115	近畿A	大阪	472		宛先不明者		11
				兵庫	434		合計	7,902	
			栃木	98	近畿B	滋賀			116
						群馬	148	京都	212
埼玉	玉	260	中国・四国	奈良	83				
				千葉	343	和歌山	23		
神奈川	490	鳥取		鳥取	29				
				島根	57				
東京A	※1	556		岡山	166				
				東京B	※2	626	広島	256	
甲信越	新潟	93					山口	56	
				長野	102	徳島	63		
				山梨	75	香川	68		
				愛媛	64				
			高知	147					

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移（年度別）



公益社団法人日本看護科学学会 平成28年度委員会名簿および分掌事項

(平成28年5月22日現在)

委員会	役職	氏名	会務分掌	委員会開催数
務総	委員長	麻原 きよみ 西村 ユミ 深堀 浩樹	・会員管理 ・入会審査 ・学会事務所の運営	入会審査 11回 (H27.4/21-5/7,5/29-6/18, 7/9,8/28,9/14,9/15, 10/14,10/22,11/25-12/1 H28.2/12,2/16)
和文誌編集	委員長	山本 則子 吉沢 豊予子 浅野 みどり 荒木 暁子 和泉 比佐子 牛久保美津子 内田 陽子 遠藤 淑美 大久保 暢子 落合 亮太 小野 智美 片岡 弥恵子 河野 あゆみ 佐伯 圭一郎 佐伯 由香子 酒井 明子 佐藤 紀子 清水 安子 鈴木 みずえ 田中 美智子 長谷川 真澄 春名 めぐみ 眞嶋 朋子 三木 明子 宮下 光令 吉田 俊子 宮本 有紀	・学会誌（オンライン版）の出版 ・学会誌への投稿の促進 ・機関リポジトリへの対応 ・査読者の質向上を目的としたセミナー等の開催 ・表彰論文選考への参画 ・投稿査読システム変更についての会員への周知	2回 (H27.6/20、12/6) 中西印刷・杏林社との打合せ会 1回 (H27.9/15)
	会 計	William L. Holzemer グレッグ美鈴 西垣 昌和 池田 理恵 石川 陽子 石原 逸子 和泉 成子 梅田 麻希 岡田 彩子 尾崎 章子 加藤 憲司 北岡 和代 佐々木美奈子 鈴木美穂子 田村 恵子 永田 智子 中村 美鈴 野口 眞弓 深井 喜代子 法橋 尚宏 堀内 成子 前田 ひとみ 丸 光恵子 山 昭子 森 恵子 山川 みやえ 山崎 あけみ 江藤 宏美	・英文誌（オンライン版）の出版 ・投稿論文促進のための活動 ・ジャーナルの認知度・評価向上のための活動 ・若手研究者支援事業の推進 ・表彰論文選考への参画 ・査読システムの整備	2回 (H27.11/6,H28.3/20) Web会議 (H27.7/30) Web小会議 (H27.4/9,5/20,7/2,11/20)
研究・学術情報	委員長	酒井 郁子 西垣 昌和 荒木 暁子 石橋 みゆき 大久保 暢子 大田 えりか 小池 智子 齋藤 訓子 高田 悦子 深堀 浩樹	・内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信 ・研究成果が診療報酬に適切に反映できるような活動の推進	2回 (H27.8/30,H28.1/10)
	会 計			

委員会	役職	氏名	会務分掌	委員会開催数
国際活動推進	委員長	中山 洋子 中南 裕子 近藤 暁子 近藤 麻理子 杉本 敬子 田代 順子 成柳 澤理子 神原 咲子	・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務	2回 (H27.11/24,H28.3/26)
	会計	高田 早苗 大森 純子 小板橋 喜久代 佐藤 和佳子 野嶋 佐由美 川原 由佳里	・看護学学術用語に関する現状と展望の検討 ・看護学学術用語の維持管理システム構築に向けた検討	3回 (H27.9/22,11/7,H28.3/17)
看護倫理検討	委員長	鎌倉 やよい 會田 信子 太田 勝正 太鶴 若麻理 宮下 美香 百瀬 由美子 飛田 伊都子	・看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応 ・研究者のモラル向上に向けた活動 ・看護学が関連する倫理的社会的な事象に対する情報収集・提供と、学会としての対応案の検討と社会に向けた見解の発信 ・研究倫理審査における異議申し立てに関する審議	3回 (H27.9/23,12/6,H28.3/28)
	会計	吉沢 豊予子 天野 雅美 尾崎 章子 布施 淳子 前田 樹海 宮下 美香 山村 美枝 中村 康香	・一般市民に向けた活動 ・看護学を通じた社会への貢献およびその方策の検討・普及 ・学術集会開催時の他に社会貢献の実績を残す(市民公開講座、出版等) ・次世代の育成事業	1回 (H28.3/11)
表彰論文選考	委員長	真田 弘美 山本 則子 グレッグ美鈴 須釜 淳子 仲上 豪二朗 宮下 光令 山勢 博彰 竹内 朋子	・和文誌・英文誌投稿論文からの表彰候補論文選考作業の円滑な運営 ・学会としての表彰論文の推薦 ・看護学への功績(学問の体系化等)のある人への表彰についての検討 ・他団体からの表彰に該当する候補者の推薦	1回 (H27.8/18) メール会議 (7月,10月)
	会計	勝原 裕美子 大坂 和可子 北村 愛子 本田 順子 大山 裕美子	・ホームページ(JANS/WANS)の維持・管理・改善 ・学会活動の広報(委員会成果物のHP掲載等) ・学術集会の広報(プレスリリース等) ・WANS本部・WANS学術集会の広報 ・学術集会の記録	3回 (H27.9/11,12/20, H28.3/13) メール会議
若手研究推進	委員長	西村 ユミ 岩國 亜紀子 澤 絵里 大島 靖子 濱吉 美穂 丸尾 智実 綿貫 成明 坂井 志織	・日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図り、将来的な看護学の発展への貢献を目指す ・学術集会の交流集会を定例的に企画・運営し、若手の研究活動の促進に努める ・若手研究者向けの研修に関するニーズ把握、及び学術情報や活動を周知する方法を検討する	3回 (H27.8/29,12/6,3/29) Web会議 (H27.4/27)
	会計	中山 洋子 井上 智子 麻原 きよみ 吉沢 豊予子 高田 早苗 山本 あい子	・災害看護支援金の申請者等の選定の審査およびフォローを行う ・JANSとしての災害看護活動のあり方について今後の方向性を検討する (平成27年度をもって活動を終了予定)	メール会議
利益相反	委員長	吉沢 豊予子 麻原 きよみ 跡上 富美 稲垣 美智子 法橋 尚宏	・役員等の潜在的利益相反判定を実施し該当の案件についてマネジメント方法を判定し、不適切な事象が起こらないようにマネジメントする。また、本会が行うすべての事業で、重大なCOI状態が生じた場合は、利益相反委員会が諮問し、答申に基づき改善措置をとる	1回 (H28.3/18)
	外部委員	井上 智子 武田 祐子 香春 知永 隈本 邦彦 戸塚 実緒 友納 理緒	・学会員からの申請で、原則として学会員が研究筆頭者であり、本会で審査することが必要であるとみなした場合に、申請された人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する	メール会議
選挙管理	委員長	高木 廣文 高野 口眞 書記 二宮 啓子 庶務 岡 美智代 庶務補佐 桑名 佳代子	・理事会からの委嘱により組織し、代議員および役員候補者選挙を行う	

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

(1) 第 35 回日本看護科学学会学術集会開催

- 第 35 回日本看護科学学会学術集会 (JANS35) を小山真理子学術集会会長のもと、平成 27 年 12 月 5 日 (土) から 6 日 (日) の 2 日間、広島国際会議場、広島市文化交流会館、JMS アステールプラザにて開催した。メインテーマは「先見・叡智・創成 ―時代を拓く看護―」、参加者総数 3,736 名、演題数 1,002 題、交流集会 45 題、ランチョンセミナー 8 件、市民フォーラム「けん玉でいきいき健康づくりーけん玉を体験してみようー」参加者数約 58 名。

(2) 第 36 回・第 37 回日本看護科学学会学術集会準備

- 第 36 回日本看護科学学会学術集会 (JANS36) を岡谷恵子学術集会会長のもと、平成 28 年 12 月 10 日 (土) から 11 日 (日) の 2 日間、東京国際フォーラムにて開催予定である。メインテーマは「国民の幸せをもたらす制度設計と看護研究」である。
- 第 37 回日本看護科学学会学術集会 (JANS37) を吉沢豊予子学術集会会長のもと、平成 29 年 12 月 16 日 (土) から 17 日 (日) の 2 日間、仙台国際センター会議棟・展示棟にて開催予定である。

(3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage)

- 和文誌編集委員会を 2 回 (平成 27 年 6 月 20 日、12 月 6 日) 開催した。
- 編集出版業務は平成 28 年 1 月 1 日をもって国際文献社から中西印刷に変更した。それに伴い、電子投稿システムを ScholarOne Manuscripts (日本代理店 杏林舎) に変更した。このために、中西印刷および杏林舎と編集委員会との打ち合わせを平成 27 年 9 月 15 日に行った。
- 電子投稿システムの変更に合わせて、ホームページの内容を改定した。
- 電子投稿での作業を行い、平成 27 年 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日) の投稿数は、計 76 編であった (前年度は 70 編)。
- 第 35 巻 (平成 27 年 1 月～12 月) 随時掲載の論文数は、論壇 0 編、総説 0 編、原著論文 12 編、資料 12 編、短報 0 編、研究報告 6 編、その他 0 編の計 30 編であり、論文公開時には会員に向けた一斉メールを配信した (前年度 原著論文 14 編、資料 1 編、短報 0 編、研究報告 24 編、その他 1 編の計 40 編)。
- 投稿数増加と査読作業の効率化を目的に専任査読委員の増員を行った (平成 27 年 4 月 188 名、平成 28 年 3 月現在 259 名)。統計担当専任査読委員の制度を導入した (平成 28 年 3 月現在 28 名)。
- 新電子投稿システムの変更に合わせ、JANS35 の前日、社員総会後に杏林舎の担当者より説明会を実施した。約 60 名が参加した。

- ・ 査読者の質向上を目的とした交流集会を開催した。JANS35にて、交流集会「研究者のエンパワメントにつながる査読コメントの書き方」を開催し、約150名の参加者を得た。
- ・ 査読ガイドラインと執筆要領を更新し、本会ホームページに掲載した。
- ・ 機関リポジトリへの掲載依頼に対応した（15件）。

(4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)

- ・ 編集委員の編成を行い、今期の編集委員は27名となった。
- ・ Holzemer 編集長来日のもと英文誌編集委員会を2回（平成27年11月6日、平成28年3月20日）、Web会議システムを用いた日本語での編集委員会を1回（平成27年7月30日）、Webによる委員会小会議を4回（平成27年4月9日、5月20日、7月2日、11月20日）開催した。
- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.12 No.2~4 および Vol.13 No.1 をオンラインで発刊した。
- ・ 既刊号については、平成28年1月より、出版後2年のエンバゴ以外無料閲覧に設定された。
- ・ 平成27年（平成27年1月1日～12月31日）の論文投稿数は327編であった（前年は237編）。
- ・ 平成26年に引き続き、ジャーナル・プロモーションのために、平成27年に優秀賞を受賞したJJNSに掲載された論文をフリーアクセスとした。
- ・ 平成27年度の若手研究者支援事業は、1編の支援対象論文を決定した。
- ・ JJNSセミナーおよびJANS35で、JJNS投稿コンサルテーションを実施した。
- ・ 平成28年1月1日よりCOI Formをオンラインサイトからダウンロードできるようにし、全ての投稿者に提出を義務付け、円滑に運用されている。
- ・ 平成26年度のimpact factorは、0.388であった（平成27年7月発表による）。

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討

- ・ 看護学学術用語検討委員会を3回（平成27年9月22日、11月7日、平成28年3月17日）開催した。
- ・ 看護学の学的基盤の整備のために始まった本委員会の学術用語の検討の目的について、学会発足よりも専門学会や博士課程が増加した現状をふまえ、議論した。
- ・ 本委員会にて検討された学術用語の利用実態を知るために、Web調査の準備をした。
- ・ 看護学における学術用語及び概念開発に関する議論を、用語や概念の誤用と混乱、実践をともなわない概念開発などをふまえて、発信する（隔月で委員会から発信する予定）。
- ・ 学術用語に関する成果物への問い合わせに対応した（2件）。

② 国際活動の推進（世界看護科学学会を含む）

国際活動推進委員会

- ・ 国際活動推進委員会は、2回（平成27年11月24日、平成28年3月26日）開催した。
- ・ 「看護系大学院におけるグローバル化に関する対応状況調査」を平成27年12月に実施した。看護学専攻（修士課程）を置いている大学院159校に調査票を送付し、73校から回答があった。（国立大学 17校、公立大学 23校、私立大学 32校、不明 1校）。単純集計を終え、現在、分析中で、結果についてはJANS36（東京）で発表する予定である。
- ・ 異文化看護データベースについては、JANS35にて「How Japanese nursing can cope with globalization (Part II) – Updating “Data base of nursing for different cultures” at JANS home page –」をテーマに、交流集会（English Session）を開催し（12月6日）、データベースに協力できる会員を募った。現在、データベース入力の枠組みを作り、協力会員との連絡調整を始めるところにまで進んでいる。

世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・ 第4回WANS学術集会（会長 Meyenburg-Altwarz, Iris）は、ドイツのHannoverにおいてEuropean Nurse Directors Association (ENDA)と共同で平成27年10月14日から10月17日まで開催された。WANS事務局として学術集会を支援するとともに、WANS理事会を10月16日16:30からHannover Conference Centreで開催した。
- ・ WANS理事会は、日本看護科学学会(JANS)、ENDA、日本災害看護学会、日本母性看護学会、日本赤十字看護学会からの理事の出席のもとで開催された。委任状2を含めても理事数16の半数には至らなかったために非公式の会議となった。今回の会議の議事録をWANS会員にメールで配信し、承認を得ることを確認した。
- ・ WANSの次期chairpersonについては、JANSから南裕子現理事長の継続（推薦）を提案した。他の組織からの推薦はないのかを確認し、南理事長の継続についてメールにて審議することになった。
- ・ 第5回WANS学術集会については、Thailand Nursing and Midwifery Council (TNMC)のPresidentであるDr. Tassana Boontongから連絡があり、平成29年に5th conference of WANSと6th TNMC quadrennial conference on Nursing Researchと合わせて開催することをThailand Nursing and Midwifery Boardで決定したという連絡があった（平成28年2月）。学術集会会長は、Dr. Tassana Boontongで、開催日は平成29年10月23日～25日、Bangkokで開催することが決定され、WANS事務局（国際活動推進委員会）と共同で準備を進めていくことになった。

③ 看護倫理の検討と啓発

学術活動の利益相反（COI）に関する指針および細則の施行（利益相反委員会）

- ・ 平成 27 年度は試行期間として、役員、委員会メンバーの COI 申請を実施した。
- ・ 平成 28 年 1 月より和・英会誌の投稿時の COI 申請に向けて、細則の見直しを行い、実施した。
- ・ JANS36 の演題投稿時の COI 申請の方法について検討し、HP 掲載等により広く周知した。
- ・ 利益相反委員会を 1 回（平成 28 年 3 月 18 日）開催し、平成 27 年度の役員、委員会メンバーの COI 申請において、書類の不備、申請内容について検討した。
- ・ 平成 28 年度に向けて英語版 COI 指針・細則、申請書作成の準備を行うこととなった。学術集会演題登録時の倫理申請は COI の有無のチェックを第一段階として行うが、これを電子署名に変更してはどうかの案が提案されたが、来年度に向けての検討事項とした。

看護倫理検討委員会

- ・ 看護倫理検討委員会を 3 回（平成 27 年 9 月 23 日、12 月 6 日、平成 28 年 3 月 28 日）開催した。
- ・ 研究者が研究活動における不正防止及び倫理の遵守に関して、どのように実行しているのかを調査するため、会員にメールで通知し Web 上で回答する方法を決定し、調査項目を確定した。

研究倫理審査委員会

- ・ 1 件の申請があった。簡易審査に該当したため、メール会議において承認した。

④ 研究成果の蓄積と活用

- ・ 研究・学術情報委員会を 2 回（平成 27 年 8 月 30 日、平成 28 年 1 月 10 日）開催し、看護学領域において優先して取り組むべき研究課題を設定することを今期の重点活動に挙げた。
- ・ 他領域の研究優先課題設定状況をレビューし、優先課題設定方法に関して検討した。

(6) 学術研究論文の表彰

- ・ 表彰論文選考委員会を 1 回（平成 27 年 8 月 18 日）、メール会議を 2 回（7 月、10 月）開催した。
- ・ 第 1 回委員会（7 月）にて表彰論文選考方針、選考基準、選考手順を平成 26 年度の方針に準ずることを確認し、8 月会議開催までに候補論文すべてについて委員の審査を終えることを確認した。
- ・ 第 2 回委員会（8 月 18 日）にて優秀賞候補 7 論文（和文 5 論文、英文 2 論文）および奨励賞候補 6 論文（和文 5 論文、英文 1 論文）を絞り込み（うち、3 本重複）、審査リストを作成した。これらについて、平成 27 年 9 月 1 日に全代議員 264 名と役員に文書及びメールにて採点を依頼した。
- ・ 10 月 15 日までに返信された 163 通について評価点の集計を行った（回収率 61.3%）。

集計結果に基づき最終選考をメール審議で行い、以下のように優秀賞 2 編、奨励賞 2 編を決定し、理事会（10 月 25 日）に報告し、承認を得た。

【優秀賞】

(ORIGINAL ARTICLES) Kumiko Ohashi . Effects of early morning care, named “Comfort upon Rising” care, on postoperative orthopedic ambulation and morning activity.

Japan Journal of Nursing Science(2014), 11(4), 268-280.

(原著)高橋 有里, 菊池 和子, 三浦 奈都子, 石田 陽子. BMI からアセスメントする筋肉内注射時の適切な注射針刺入深度の検討. 日本看護科学会誌 Vol. 34, pp. 36-45,2014

【奨励賞】

(研究報告) 山内 朋子. 他者とうまく距離をとることができない発達障害の学童に対する看護師のかかわり. 日本看護科学会誌 Vol. 34, pp. 170-179,2014

(研究報告) 藤田 景子. ドメスティック・バイオレンス被害女性の周産期および育児期を通じた DV 被害に対する認識の回復過程. 日本看護科学会誌 Vol. 34, pp. 198-207,2014

(7) 学会組織の強化・発展

① 若手研究推進委員会の活動の推進

- ・ 若手研究推進委員会を、対面式で 3 回（8 月 29 日、12 月 6 日、3 月 29 日）、Web 会議を 1 回（4 月 27 日）開催した。
- ・ JANS 若手の HP 作成について準備検討を行い、11 月に JANS 本体の HP に組み込む形で公開した。
- ・ JANS35 交流集会「看護学研究者としてのキャリアデザインを描こう！～博士後期課程修了後の未来が見えていますか？～」を企画し開催した。所属を越えた若手同志のつながりを作るために、学術集会開催時にオフ会を開催した。
- ・ JANS36 での交流集会企画・若手向けの研修の企画も継続検討した。
- ・ 若手の研修ニーズ調査について準備検討を行い、Web アンケートを 2 月に実施した。
- ・ JANS 若手の会メーリングリストを活用し、情報の発信を行った。
- ・ 各地域での若手の活動拠点を作るために、エリアコーディネーターの育成準備を行った。

② JANS セミナー

- ・ 第 6 回 JANS セミナー「責任ある研究行為 ―知っておきたい利益相反&オーサーシップ―」を平成 27 年 6 月 21 日（日）14 時 00 分～17 時 15 分で、AP 東京八重洲通り(東京都中央区)を会場にして開催した。参加者 218 名。
- ・ 第 7 回 JANS セミナー「エビデンスを統合する ―システムティックレビューとメタ統合―」を平成 28 年 3 月 26 日（土）10 時～16 時 30 分で、聖路加国際大学 アリス・C・セントジョン メモリアルホール（東京都中央区）を会場に開催した。会場参加者 218 名、Web 参加者 190 名。

- ・ JANS セミナーのアーカイブ化（講義内容の保存・ウェブを通じた配信システムの構築）について検討を開始した。

③ JNS セミナー

- ・ 平成 27 年 11 月 7 日に啓発活動としてのセミナー “Improving Your Success at Publishing in English in 2015” を初めて大阪で開催した。参加者 202 名で、好評であった。

(8) 社会貢献活動

- ・ 社会貢献委員会を 1 回（平成 28 年 3 月 11 日）開催した。
- ・ JANS35 「市民フォーラム」、「ナーシング・サイエンス・カフェ」においては、メール審議を重ね実施した。
- ・ 広報活動においては広報委員会と協働して行った。委員交代の時期と重なり、広報が遅れてしまった。
- ・ 平成 27 年 12 月 6 日（日）市民フォーラム「けん玉でいきいき健康作り—けん玉を体験してみよう—」、ナーシング・サイエンス・カフェ「時代を拓く看護の魅力—見て聞いて触れて感じて考える、看護の役割—」を開催した。それぞれ、58 名、28 名の参加者があった。アンケートにおいては、両プログラムともわかりやすく、満足いただけるものとなった。時間配分では、市民フォーラムは 90 分、けん玉体験と講義で適正な時間であった。ナーシング・サイエンス・カフェは 60 分であったが、カフェトークの時間が少し短かった。
- ・ 平成 28 年 3 月に委員会を開催し、JANS35 の市民フォーラムとナーシング・サイエンス・カフェの総括を行った。続いて、JANS36 の市民フォーラムとナーシング・サイエンス・カフェの企画案について審議した。市民フォーラムは「身終り（みじまい）～人生の終え方～」（案）、ナーシング・サイエンス・カフェは、「病院以外にも看護はある～看護のライセンスを活かす～」（案）で講師の選出など担当を決め進めることとなった。
- ・ ナーシング・サイエンス・カフェのオブザーバー参加についても、検討した。会員限定で会場の大きさを考慮しながら検討を続ける。

(9) 広報活動

- ・ 広報委員会を 3 回（平成 27 年 9 月 11 日、平成 27 年 12 月 20 日、平成 28 年 3 月 13 日）、ほか、メール会議を複数回開催した。
- ・ 学術集会企画委員会との連携
 - ① JANS35 に関連した広報活動を行った（プレスリリースの作成、厚生労働省、文部科学省への投げ込み、開催地の報道機関への広報）
 - ② JANS35 に関連した広報活動におけるメディアの選択については、地元の企画委員から紹介してもらった。

- ・ 社会貢献委員会との連携
 - ① 市民フォーラムの広報媒体の作成、配布した。
 - ② ナーシング・サイエンス・カフェの広報媒体の作成、配布した。
 - ③ 市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェ共に JANS ホームページに情報を掲載した。
- ・ 学会 HP の充実
 - ① 随時内容の更新、整理を行った。「バナー」の整理を行い、「メニュー」と「バナー」を変更した。
 - ② 学術集会の記録を行い、ホームページにアップした。

(10) 災害看護支援事業（日本看護系学会協議会との共同事業による）

- ・ 日本看護系学会協議会との共同事業として東日本大震災の援助活動を支援するために開始された災害看護支援金による助成事業は、平成 27 年度をもって終了とすることを決め、専門委員会は、平成 27 年度「災害看護支援金による助成事業」として採択された 2 つの活動についてのフォローを担当することになった。
- ・ 平成 28 年 3 月に提出された「災害看護支援金による事業完了報告書」について、専門委員会の委員でメール審議を行い、2 つの事業が適切に実施されたことを確認した。
- ・ 終了した事業は以下の 2 件で助成額は、各 35 万円、合わせて 70 万円であった。
 - ① 代表者：山本由子（武蔵野大学）
事業名：被災高齢者への継続的な健康維持支援プログラムの検討
 - ② 代表者：中井寿雄（金沢医科大学）
事業名：医療処置を要する在宅療養者と支援者が共同で備えをするための「災害備えチェックシート」の開発—生命維持のために医療機器を要する在宅療養者の災害に対する備えの実態—
- ・ 助成事業の終了により「災害看護支援事業専門委員会」は、5 年間の活動をもって終了するが、今後、災害等の緊急事態が発生した場合は、臨時委員会を組織するなどして対応していく。

(11) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

- ・ 平成 27 年 6 月 30 日（火）、平成 27 年度総会が日本赤十字看護大学広尾キャンパスで開催され、理事長が出席した。役員の変更結果について説明があり、新役員が紹介された。医療事故報告制度に関する学会の役割について厚生労働省の担当者から説明があり、各学会に今後の本制度への対応について依頼があった。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

- ・ 平成 27 年度は、理事会 8 回、社員総会 1 回、看護技術検討委員会 2 回、診療報酬及び介護報酬のあり方に関する検討委員会 1 回を開催。
- ・ 日本褥瘡学会が入会。全国自治体病院協議会看護部会が平成 27 年度をもって退会。
- ・ 「平成 28 年度診療報酬に関する要望書」を作成し、8 月 10 日に厚生労働省に提出。地域包括ケアシステムを支える看護の機能への評価、効率的・効果的な医療につながる看護の専門性への評価の 2 点を重点要望として評価を求めた。
- ・ 平成 30 年度診療報酬・介護報酬同時改訂に向け、看護の「つなぐ」機能がより一層発揮できるよう、「医療・介護施設と在宅をつなぎ地域包括ケアシステムの推進に貢献できるもの」、「予防・健康づくりを通じ、質の高い医療・介護の効率化・適正化実現に貢献できるもの」の 2 点に重点を置き要望書を作成していくこととした。
- ・ 第 14 回三保連シンポジウムを 9 月 17 日に開催(当番。テーマは「28 年診療報酬改定に期待するもの ―三保連の連携と重点的な要求の工夫―」で、看保連からは任和子理事が平成 28 年度診療報酬改定における看保連の要望について発表。
- ・ 平成 27 年度の研究助成件数は 5 件。日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本看護技術学会、日本老年看護学会、日本小児看護学会からの推薦を受けた研究に助成。
- ・ 診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究事業ワーキング会議を 3 回開催。業務量調査(タイムスタディ)のパイロット調査を計画している。
- ・ 情報交換会を 3 回開催。第 1 回「診療報酬制度の構造と展望」(平成 27 年 7 月 23 日)、第 2 回「DPC と看護の評価」(11 月 19 日)、第 3 回「介護保険制度の構造と看護の評価」(平成 28 年 3 月 28 日)

③ 日本学術会議

- ・ 日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関

山上の光賞への近藤潤子氏の推薦・受賞

- ・ 第 2 回山上の光賞に候補者を推薦し、近藤潤子氏が「看護・保健部門」の受賞者に選出された。同賞の主旨は、日本の広範な健康・医療分野において素晴らしい活躍をしている 75 歳以上の方々を顕彰することである。
- ・ 平成 28 年 1 月 22 日、本会に候補者推薦依頼があり、総務会担当理事および表彰論文選考委員長が候補者を検討し、近藤氏を推薦することになった。
- ・ 本人の了解を得て推薦書を作成し、2 月 16 日に提出した。
- ・ 3 月 16 日、近藤氏の「看護・保健部門」の受賞が決定した。
- ・ 5 月 10 日に授賞式が行われた（於：ANA インターコンチネンタルホテル東京）。

第1号議案

法人名：公益社団法人 日本看護科学学会

貸借対照表 平成 28年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	108,290,296	100,906,066	7,384,230
未収会費	2,630,000	3,030,000	△ 400,000
未収金	1,389,946	274,618	1,115,328
たな卸資産	290,679	308,761	△ 18,082
前払費用	3,968,240	2,257,981	1,710,259
流動資産合計	116,569,161	106,777,426	9,791,735
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
選挙積立預金	1,399,859	0	1,399,859
退職給付引当資産	3,878,900	3,919,500	△ 40,600
災害看護支援資産	78,472	718,438	△ 639,966
特定資産合計	5,357,231	4,637,938	719,293
(3) その他固定資産			
什器備品	168,030	216,940	△ 48,910
一括償却資産	71,656	178,835	△ 107,179
電話加入権	72,030	72,030	0
保証金	1,400,000	1,400,000	0
長期前払費用	108,000	0	108,000
その他固定資産合計	1,819,716	1,867,805	△ 48,089
固定資産合計	7,176,947	6,505,743	671,204
資産合計	123,746,108	113,283,169	10,462,939
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	7,000	0	7,000
未払費用	3,753,922	2,688,732	1,065,190
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	244,800	539,900	△ 295,100
前受会費	18,130,000	17,270,000	860,000
預り金	147,590	124,381	23,209
流動負債合計	22,353,312	20,693,013	1,660,299
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,878,900	3,919,500	△ 40,600
固定負債合計	3,878,900	3,919,500	△ 40,600
負債合計	26,232,212	24,612,513	1,619,699
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
2. 指定正味財産			
寄付金	78,472	718,438	△ 639,966
指定正味財産合計 (うち特定資産への充当額)	78,472 (78,472)	718,438 (718,438)	△ 639,966 (△ 639,966)
3. 一般正味財産			
(1) 代替基金	0	0	0
(2) その他一般正味財産	24,508,800	15,025,594	9,483,206
一般正味財産合計 (うち特定資産への充当額)	24,508,800 (1,399,859)	15,025,594 (0)	9,483,206 (1,399,859)
正味財産合計	97,513,896	88,670,656	8,843,240
負債及び正味財産合計	123,746,108	113,283,169	10,462,939

貸借対照表内訳表
平成 28年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	108,290,296	0	108,290,296
未収会費	0	0	2,630,000	0	2,630,000
未収金	1,379,946	0	10,000	0	1,389,946
たな卸資産	290,679	0	0	0	290,679
前払費用	3,242,029	0	726,211	0	3,968,240
他会計短期貸付金	0	0	29,970,704	△ 29,970,704	0
流動資産合計	4,912,654	0	141,627,211	△ 29,970,704	116,569,161
2. 固定資産					
(1)基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2)特定資産					
選挙積立預金	0	0	1,399,859	0	1,399,859
退職給付引当資産	0	0	3,878,900	0	3,878,900
災害看護支援資産	78,472	0	0	0	78,472
特定資産合計	78,472	0	5,278,759	0	5,357,231
(3)その他固定資産					
什器備品	61,653	2,717	103,660	0	168,030
一括償却資産	0	0	71,656	0	71,656
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
保証金	0	0	1,400,000	0	1,400,000
長期前払費用	0	0	108,000	0	108,000
その他固定資産合計	61,653	2,717	1,755,346	0	1,819,716
固定資産合計	140,125	2,717	7,034,105	0	7,176,947
資産合計	5,052,779	2,717	148,661,316	△ 29,970,704	123,746,108
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	7,000	0	0	0	7,000
未払費用	3,029,282	0	724,640	0	3,753,922
未払法人税等	0	70,000	0	0	70,000
未払消費税等	0	0	244,800	0	244,800
前受会費	250,000	0	17,880,000	0	18,130,000
預り金	0	0	147,590	0	147,590
他会計短期借入金	26,872,786	3,097,918	0	△ 29,970,704	0
流動負債合計	30,159,068	3,167,918	18,997,030	△ 29,970,704	22,353,312
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	3,878,900	0	3,878,900
固定負債合計	0	0	3,878,900	0	3,878,900
負債合計	30,159,068	3,167,918	22,875,930	△ 29,970,704	26,232,212
III 正味財産の部					
1. 基金					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
2. 指定正味財産					
寄付金	78,472	0	0	0	78,472
指定正味財産合計	78,472	0	0	0	78,472
(うち特定資産への充当額)	(78,472)	(0)	(0)	(0)	(78,472)
3. 一般正味財産					
(1)代替基金	0	0	0	0	0
(2)その他一般正味財産	△ 25,184,761	△ 3,165,201	52,858,762	0	24,508,800
一般正味財産合計	△ 25,184,761	△ 3,165,201	52,858,762	0	24,508,800
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(1,399,859)	(0)	(1,399,859)
正味財産合計	△ 25,106,289	△ 3,165,201	125,785,386	0	97,513,896
負債及び正味財産合計	5,052,779	2,717	148,661,316	△ 29,970,704	123,746,108

正味財産増減計算書

平成 27年 4月 1日 から平成 28年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	965	888	77
受取会費			
正会員受取会費	83,890,000	80,360,000	3,530,000
賛助会員受取会費	300,000	300,000	0
受取会費計	84,190,000	80,660,000	3,530,000
事業収益			
学会誌収益	1,476,260	988,370	487,890
学術集会収益	41,452,000	41,373,000	79,000
広告販売収益	6,705,340	6,933,600	△ 228,260
事業収益計	49,633,600	49,294,970	338,630
受取寄付金			
受取寄付金	144,000	144,000	0
助成金収益	0	336,800	△ 336,800
受取寄付金振替額	700,000	1,210,000	△ 510,000
受取寄付金計	844,000	1,690,800	△ 846,800
雑収益			
受取利息	5,095	4,189	906
著作権料収益	433,546	373,600	59,946
セミナー収益	4,479,000	4,331,000	148,000
懇親会収益	698,000	586,000	112,000
雑収益計	5,615,641	5,294,789	320,852
経常収益計	140,284,206	136,941,447	3,342,759
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	288,460	286,916	1,544
和文誌発行費	5,505,693	9,992,625	△ 4,486,932
英文誌発行費	18,494,753	16,312,822	2,181,931
期末たな卸高	△ 290,679	△ 308,761	18,082
給料手当	10,455,792	6,034,139	4,421,653
臨時雇賃金	154,700	144,200	10,500
賞与	621,471	412,422	209,049
退職給付費用	447,427	309,147	138,280
福利厚生費	1,369,540	749,406	620,134
旅費交通費	4,254,539	3,098,072	1,156,467
通信運搬費	3,922,131	3,112,696	809,435
減価償却費	12,966	17,182	△ 4,216
消耗品費	1,144,091	848,267	295,824
修繕費	95,355	59,991	35,364
印刷製本費	10,581,653	12,097,652	△ 1,515,999
慶弔費	22,395	3,831	18,564
光熱水料費	445,607	308,819	136,788
賃借料	2,861,596	1,771,372	1,090,224
保険料	51,016	2,893	48,123
諸謝金	1,043,467	1,488,000	△ 444,533
租税公課	691,203	910,275	△ 219,072
支払助成金	700,000	4,710,000	△ 4,010,000
委託費	16,141,475	11,245,128	4,896,347
会議費	1,172,968	1,195,151	△ 22,183
表彰費	169,720	257,070	△ 87,350
渉外費	15,130	30,000	△ 14,870
会場費	19,820,471	23,551,845	△ 3,731,374
通勤手当	877,663	666,755	210,908
雑費	1,685,956	1,420,396	265,560
事業費計	102,756,559	100,728,311	2,028,248

正味財産増減計算書
平成 27年 4月 1日 から平成 28年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費			
給料手当	6,646,989	9,497,968	△ 2,850,979
賞与	399,159	664,166	△ 265,007
臨時雇賃金	218,000	117,750	100,250
退職給付費用	287,373	497,853	△ 210,480
福利厚生費	879,630	1,206,842	△ 327,212
会議費	6,026,990	4,235,316	1,791,674
渉外費	10,800	10,789	11
旅費交通費	565,490	848,440	△ 282,950
通信運搬費	1,221,848	2,691,023	△ 1,469,175
減価償却費	128,061	169,344	△ 41,283
通勤手当	563,707	1,052,835	△ 489,128
消耗品費	417,053	390,356	26,697
修繕費	61,245	96,609	△ 35,364
印刷製本費	47,002	351,904	△ 304,902
慶弔費	14,385	6,169	8,216
光熱水料費	286,206	497,323	△ 211,117
賃借料	1,837,947	2,852,621	△ 1,014,674
保険料	32,768	4,657	28,111
租税公課	21,651	22,398	△ 747
支払負担金	150,000	150,000	0
委託費	4,118,331	3,569,320	549,011
資格喪失者会費	2,370,000	1,650,000	720,000
懇親会費	1,017,420	961,514	55,906
雑費	617,023	895,227	△ 278,204
管理費計	27,939,078	32,440,424	△ 4,501,346
経常費用計	130,695,637	133,168,735	△ 2,473,098
評価損益等調整前当期経常増減額	9,588,569	3,772,712	5,815,857
当期経常増減額	9,588,569	3,772,712	5,815,857
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損失			
什器備品除却損	15,062	0	15,062
その他の経常外費用			
前期たな卸高修正損	20,301	0	20,301
経常外費用計	35,363	0	35,363
当期経常外増減額	△ 35,363	0	△ 35,363
税引前当期一般正味財産増減額	9,553,206	3,772,712	5,780,494
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	9,483,206	3,702,712	5,780,494
一般正味財産期首残高	15,025,594	11,322,882	3,702,712
一般正味財産期末残高	24,508,800	15,025,594	9,483,206
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金			
受取寄付金	60,000	442,048	△ 382,048
特定資産受取利息	34	139	△ 105
受取寄付金計	60,034	442,187	△ 382,153
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 700,000	△ 1,210,000	510,000
当期指定正味財産増減額	△ 639,966	△ 767,813	127,847
指定正味財産期首残高	718,438	1,486,251	△ 767,813
指定正味財産期末残高	78,472	718,438	△ 639,966
III 基金増減の部			
基金受入額	0	0	0
基金返還額	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	97,513,896	88,670,656	8,843,240

正味財産増減計算書内訳表
平成 27年 4月 1日 から平成 28年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	災害看護支援	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
特定資産運用益												
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	965	965
受取会費												
正会員受取会費	0	0	0	0	0	41,945,000	41,945,000	0	0	0	41,945,000	83,890,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	300,000	300,000	0	0	0	0	300,000
受取会費計	0	0	0	0	0	42,245,000	42,245,000	0	0	0	41,945,000	84,190,000
事業収益												
学会誌収益	0	1,476,260	0	0	0	0	1,476,260	0	0	0	0	1,476,260
学術集会収益	0	0	41,452,000	0	0	0	41,452,000	0	0	0	0	41,452,000
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	6,705,340	0	6,705,340	0	6,705,340
事業収益計	0	1,476,260	41,452,000	0	0	0	42,928,260	6,705,340	0	6,705,340	0	49,633,600
受取寄付金												
受取寄付金	0	24,000	120,000	0	0	0	144,000	0	0	0	0	144,000
受取寄付金振替額	0	0	0	0	700,000	0	700,000	0	0	0	0	700,000
受取寄付金計	0	24,000	120,000	0	700,000	0	844,000	0	0	0	0	844,000
雑収益												
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,095	5,095
著作権料収益	0	433,546	0	0	0	0	433,546	0	0	0	0	433,546
セミナー収益	2,746,000	1,733,000	0	0	0	0	4,479,000	0	0	0	0	4,479,000
懇親会収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	698,000	698,000
雑収益計	2,746,000	2,166,546	0	0	0	0	4,912,546	0	0	0	703,095	5,615,641
経常収益計	2,746,000	3,666,806	41,572,000	0	700,000	42,245,000	90,929,806	6,705,340	0	6,705,340	42,649,060	140,284,206
(2) 経常費用												
事業費												
期首たな卸高	0	288,460	0	0	0	0	288,460	0	0	0	0	288,460
和文誌発行費	0	5,505,693	0	0	0	0	5,505,693	0	0	0	0	5,505,693
英文誌発行費	0	18,494,753	0	0	0	0	18,494,753	0	0	0	0	18,494,753
期末たな卸高	0	△ 290,679	0	0	0	0	△ 290,679	0	0	0	0	△ 290,679
給料手当	4,299,918	1,627,372	4,041,161	208,861	0	0	10,177,312	139,240	139,240	278,480	0	10,455,792
臨時雇賃金	61,200	10,000	83,500	0	0	0	154,700	0	0	0	0	154,700
賞与	254,086	97,725	240,394	12,542	0	0	604,747	8,362	8,362	16,724	0	621,471
退職給付費用	182,929	70,357	173,071	9,030	0	0	435,387	6,020	6,020	12,040	0	447,427
福利厚生費	559,931	215,359	529,759	27,639	0	0	1,332,688	18,426	18,426	36,852	0	1,369,540
旅費交通費	1,629,154	992,755	1,406,145	197,152	0	0	4,225,206	26,427	2,906	29,333	0	4,254,539
通信運搬費	878,524	334,355	2,545,833	80,043	0	0	3,838,755	57,783	25,593	83,376	0	3,922,131
減価償却費	6,362	2,810	2,944	304	0	0	12,420	200	346	546	0	12,966
消耗品費	298,198	102,269	704,977	13,105	0	0	1,118,549	16,806	8,736	25,542	0	1,144,091
修繕費	38,986	14,994	36,885	1,924	0	0	92,789	1,283	1,283	2,566	0	95,355
印刷製本費	567,425	212,983	9,629,284	169,991	0	0	10,579,683	985	985	1,970	0	10,581,653
磨用費	9,156	3,522	8,663	452	0	0	21,793	301	301	602	0	22,395
光熱水料費	182,185	70,071	172,368	8,993	0	0	433,617	5,995	5,995	11,990	0	445,607
賃借料	1,169,953	449,982	1,106,907	57,752	0	0	2,784,594	38,501	38,501	77,002	0	2,861,596
保険料	20,858	8,022	19,734	1,030	0	0	49,644	686	686	1,372	0	51,016
諸謝金	167,055	341,836	501,165	33,411	0	0	1,043,467	0	0	0	0	1,043,467
租税公課	75,915	99,769	330,145	0	0	0	505,829	185,374	0	185,374	0	691,203
支払助成金	0	0	0	0	700,000	0	700,000	0	0	0	0	700,000
委託費	2,393,089	1,104,022	12,373,716	206,660	0	0	16,077,487	31,994	31,994	63,988	0	16,141,475
会議費	52,238	132,343	943,406	28,204	0	0	1,156,191	16,777	0	16,777	0	1,172,968
表彰費	0	169,720	0	0	0	0	169,720	0	0	0	0	169,720
渉外費	0	0	14,866	0	0	0	14,866	264	0	264	0	15,130
会場費	613,116	553,392	18,261,150	68,059	0	0	19,495,717	324,754	0	324,754	0	19,820,471
通勤手当	358,830	138,011	339,493	17,713	0	0	854,047	11,808	11,808	23,616	0	877,663
雑費	392,875	197,864	1,018,941	38,914	0	0	1,648,594	24,437	12,925	37,362	0	1,685,956
事業費計	14,211,983	30,947,760	54,484,507	1,181,779	700,000	0	101,526,029	916,423	314,107	1,230,530	0	102,756,559

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)当法人は、公益法人会計基準（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(2)たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。

- ①什器備品・・・・・・定率法によっている。
- ②一括償却資産・・・・・・3年間にわたる定額法によっている。

(4)引当金の計上基準

退職給付引当金・・・・・・当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(5)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	0	1,500,249	100,390	1,399,859
退職給付引当資産	3,919,500	734,800	775,400	3,878,900
災害看護支援資産	718,438	60,034	700,000	78,472
小計	4,637,938	2,295,083	1,575,790	5,357,231
合計	4,637,938	2,295,083	1,575,790	5,357,231

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち基金からの充 当額)	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
特定資産					
選挙積立預金	1,399,859	(0)	(0)	(1,399,859)	(0)
退職給付引当資産	3,878,900	(0)	(0)	(0)	(3,878,900)
災害看護支援資産	78,472	(0)	(78,472)	(0)	(0)
小計	5,357,231	(0)	(78,472)	(1,399,859)	(3,878,900)
合計	5,357,231	(0)	(78,472)	(1,399,859)	(3,878,900)

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内容	金額
経常収益への振替額	
山本由子 被災高齢者への継続的な健康維持支援プログラムの検討	350,000
中井寿雄 医療処置を要する在宅療養者と支援者が共同で備えをするための「災害備えチェックシート」の開発 ―生命維持のために医療機器を要する在宅療養者の災害に対する備えの実態―	350,000
合計	700,000

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	2,814,866	2,646,836	168,030
一括償却資産	321,539	249,883	71,656

附属明細書

1. 重要な固定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	0	1,500,249	100,390	1,399,859
	退職給付引当資産	3,919,500	734,800	775,400	3,878,900
	災害看護支援資産	718,438	60,034	700,000	78,472
	特定資産計	4,637,938	2,295,083	1,575,790	5,357,231
その他固定資産	什器備品	216,940	0	48,910	168,030
	一括償却資産	178,835	0	107,179	71,656
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	保証金	1,400,000	0	0	1,400,000
	長期前払費用	0	108,000	0	108,000
	その他固定資産計	1,867,805	108,000	156,089	1,819,716

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	3,919,500	734,800	775,400	0	3,878,900

財産目録
平成 28年 3月 31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元現金	運転資金として	115,816
	学術集会用小口現金	運転資金として	31,654
預金	普通預金		
	みずほ銀行本郷支店	運転資金として	90,515,516
	三菱東京UFJ銀行 本郷支店	運転資金として	2,518,651
	三菱東京UFJ銀行 本郷支店	運転資金として	11,568,760
	ゆうちょ銀行	運転資金として	1,185,572
	ゆうちょ銀行	運転資金として	1,848,000
	三菱東京UFJ銀行 新宿支店	運転資金として	506,327
未収会費	平成27年度会費263名分	会員会費未収金	2,630,000
未収金	㈱国際文献社	学会誌・講演集販売代金の未収金H27.4～28.3月分	1,365,660
	中西印刷㈱	講演集H28.1～3月分	8,100
	㈱メテオ	著作権料H27.4～28.3月分会誌著作権料	3,186
	第7回 JANSセミナーWEB受講参加費 平成27年度会費	会員1名 H28.4.1入金分(会員1名)	3,000 10,000
たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫	学会誌及び学術講演集	290,679
前払費用	(有)プライムアソシエイツ	JJNS編集事務費H28.4.1～H28.12.31	2,316,600
	ウイリアム・ルイス・ホルツマー	JJNS編集長報酬H28.4～6月分	650,000
	㈱損害保険ジャパン	火災保険料H28.4月分	847
	(有)富士見ビル(フジミビル)	事務所賃借料H28.4月分	288,000
	弥生㈱	年間ネット更新料H28.4～H29.3月分	43,200
	春日土地㈱ 事務所賃借更新料 H28.4.1～H29.3.31	管理業務の用に供している。	144,000
	AIU損害保険㈱	個人情報漏洩保険 H28.4.1～H29.3.31	76,500
	一般財団法人日本教育会館	施設利用料 H28.12.9実施理事会及び社員総会 会場費	173,664
㈱杏林舎	年間システム利用料及びネット料H28.4～H28.12月分	275,429	
流動資産合計			116,569,161
(固定資産)			
特定資産			
選挙積立預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店	選挙のための資産である。	1,399,859
退職給付引当資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	退職金の引当資産である。	3,878,900
災害看護支援資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	指定正味財産を財源とする財産であり、災害看護支援事業のために寄付を受けている。	78,472
その他固定資産			
什器備品	東京都文京区本郷3-37-3 オカムラ両開き書庫他5点	共用財産であり、公益目的事業の用に36.7%、収益事業の用に1.6%、管理業務の用に61.7%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	168,030
一括償却資産	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	71,656
電話加入権	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	72,030
保証金	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	1,400,000
長期前払費用	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	108,000
固定資産合計			7,176,947
資産合計			123,746,108

(流動負債)	未払金	第7回 JANSセミナー参加費	会員1名 重複入金返金予定分	7,000
	未払費用	日本郵便㈱ 参加費領収書郵送料68通	学術振興事業(第7回JANSセミナー)で使用した郵送料である。	5,576
		案内パンフレット 8333件 郵便料金口座振替	第36回学術集会事業の郵送料である。 管理業務の口座振替料である。	583,310 12,538
		㈱国際文献社	学会誌事業の合本版印刷作成費用である。	423,576
		中西印刷㈱	学会誌次号の編集査読事務費等である。	608,580
		国際活動推進委員会	学術振興事業の委員交通費である。	24,510
		看護倫理検討委員会委員	学術振興事業の委員交通費である。	55,230
		学校法人聖路加国際大学	学術振興事業(第7回JANSセミナー)の施設利用料である。	176,600
		会員	学術振興事業(第7回JANSセミナー)の交通費及び打合せ代である。	39,470
		㈱プランニングウィル	学術振興事業(第7回JANSセミナー)の運営委託業者である。	1,112,430
		厚生労働省年金局	社会保険料(H28.3月分) 法人負担分	194,350
		㈱マイナビ	管理業務の職員募集サイト利用料である。	432,000
		㈱カントー	エプソンのパソコン購入費用である。	85,752
	未払法人税等	東京都千代田都税事務所	平成27年度法人都民税	70,000
	未払消費税等	本郷税務署	平成27年度消費税及び地方消費税	244,800
	前受会費	平成28～29年度会費 他	平成28年度正会員10,000円×1,785名 平成29年度正会員10,000円×3名 平成29年度賛助会員 50,000円×5口	18,130,000
	預り金	事務所員 中村コンサルティング オフィス、他3名	給与源泉税・住民税 報酬源泉税	68,393 79,197
流動負債合計				22,353,312
(固定負債)	退職給付引当金	事務所員7名分	平成28年3月末日要支給額	3,878,900
固定負債合計				3,878,900
負債合計				26,232,212
正味財産				97,513,896

平成27年度 収支計算書

平成27年4月 1日 から平成 28年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成27年度 予算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	平成27年度 決算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	965	35
特定資産受取利息収入		1,000	965	35
②会費収入		85,700,000	83,290,000	2,410,000
正会員会費収入	※1	85,400,000	82,990,000	2,410,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入（講演集含む）	※3	340,000	1,456,260	△ 1,116,260
④寄附金収入（学術集会含まず）		500,000	84,034	415,966
災害看護支援寄附金収入（利息含む）		500,000	60,034	439,966
その他の寄附金収入	※4	0	24,000	△ 24,000
⑤雑収入		4,403,000	4,937,641	△ 534,641
受取利息収入		3,000	5,095	△ 2,095
著作権料収入		100,000	433,546	△ 333,546
セミナー収入		4,300,000	4,479,000	△ 179,000
その他雑収入	※5	0	20,000	△ 20,000
④学術集会収入		40,128,600	48,975,340	△ 8,846,740
学術集会参加費収入	※6	31,550,000	41,452,000	△ 9,902,000
事前登録会員（10,000円）		14,000,000	20,330,000	△ 6,330,000
事前登録非会員（12,000円税込）		3,600,000	5,424,000	△ 1,824,000
事前登録学部生（3,000円）		600,000	21,000	579,000
当日登録会員（12,000円）		8,400,000	9,180,000	△ 780,000
当日登録非会員（14,000円税込）		4,200,000	6,440,000	△ 2,240,000
当日登録学部生（3,000円）		750,000	57,000	693,000
寄附金・助成金収入		550,000	120,000	430,000
広告販売収入		7,388,600	6,705,340	683,260
スポンサードセミナー		1,425,600	1,080,000	345,600
企業展示出展料		2,692,000	4,804,540	△ 2,112,540
広告掲載料		3,271,000	820,800	2,450,200
懇親会収入		640,000	698,000	△ 58,000
雑収入		0	0	0
事業活動収入合計（I a）		131,072,600	138,744,240	△ 7,671,640
2. 事業活動支出				
①事業費支出		78,467,020	80,312,657	△ 1,845,637
学会誌発行費支出		18,270,000	23,822,138	△ 5,552,138
和文誌編集・印刷費支出	※7	3,770,000	5,327,385	△ 1,557,385
英文誌編集費支出	※8	14,500,000	18,494,753	△ 3,994,753
編集活動費支出		3,613,000	2,902,297	710,703
和文誌編集委員会費支出	※9	830,000	295,599	534,401
英文誌編集委員会費支出		2,783,000	2,606,698	176,302
看護学術振興費支出		6,221,000	2,880,286	3,340,714
研究・学術情報委員会費支出	※10	422,000	142,390	279,610
国際活動推進委員会費支出	※11	2,295,000	1,097,769	1,197,231
看護学学術用語検討委員会費支出	※12	1,134,000	293,916	840,084
看護倫理検討委員会費支出	※13	500,000	124,258	375,742
表彰論文選考委員会費支出		220,000	100,520	119,480
若手研究推進委員会		500,000	365,235	134,765
災害看護支援事業専門委員会支出	※14	150,000	56,198	93,802
災害看護支援助成金支出		1,000,000	700,000	300,000
研究学術活動費支出		3,420,000	2,625,752	794,248
受賞論文表彰費支出		180,000	169,720	10,280
研究倫理審査委員会費		120,000	2,040	117,960
セミナー等開催費	※15	3,120,000	2,453,992	666,008
社会的活動費支出		1,275,000	891,439	383,561
社会貢献委員会支出（市民フォーラム開催費含む）		745,000	453,996	291,004
広報委員会費支出（公益目的事業分）	※16	530,000	437,443	92,557

平成27年度 収支計算書

平成27年4月1日 から平成 28年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成27年度 予算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	平成27年度 決算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	差異
学術集会費支出		45,668,020	47,190,745	△ 1,522,725
当年度開催学術集会		42,457,460	45,698,779	△ 3,241,319
会場費支出		18,150,000	18,585,904	△ 435,904
会議費支出	※17	1,888,500	887,094	1,001,406
旅費交通費支出	※18	2,350,000	1,290,208	1,059,792
消耗品費支出		427,560	426,165	1,395
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,484,760	1,561,493	△ 76,733
印刷製本費支出(プログラム印刷含む)	※19	6,594,840	9,288,464	△ 2,693,624
委託費支出	※20	7,020,000	11,345,860	△ 4,325,860
人件費支出		483,000	121,500	361,500
謝金支出	※21	1,470,000	501,165	968,835
渉外費支出		50,000	15,130	34,870
雑支出		1,538,800	658,376	880,424
懇親会運営費支出		1,000,000	1,017,420	△ 17,420
次年度開催学術集会(準備期間)		3,210,560	1,491,966	1,718,594
会場費支出		0	0	0
会議費支出		70,000	73,089	△ 3,089
旅費交通費支出		600,000	55,900	544,100
消耗品費支出		100,000	25,020	74,980
通信運搬費支出(パンフレット送料含む)		1,113,560	877,981	235,579
印刷製本費支出(パンフレット印刷含む)		1,077,000	459,501	617,499
委託費支出		0	0	0
人件費支出		200,000	0	200,000
謝金支出		0	0	0
雑支出		50,000	475	49,525
②管理費支出		47,660,000	47,914,772	△ 254,772
給料手当支出(賞与含む)		18,980,000	18,016,661	963,339
通勤費支出	※22	2,200,000	1,441,370	758,630
福利厚生費支出		2,415,000	2,249,170	165,830
退職給付支出		300,000	775,400	△ 475,400
学会総会費		300,000	138,387	161,613
社員総会費		3,260,000	3,588,846	△ 328,846
理事会費		2,210,000	2,276,009	△ 66,009
委託費支出	※23	4,910,000	6,496,357	△ 1,586,357
渉外費支出		30,000	10,800	19,200
旅費交通費支出		430,000	354,760	75,240
通信運搬費支出		2,390,000	2,524,143	△ 134,143
消耗品費支出		1,200,000	1,066,385	133,615
印刷製本費支出		130,000	151,502	△ 21,502
慶弔費支出		50,000	36,780	13,220
光熱水料費支出		730,000	731,813	△ 1,813
貸借料支出		4,957,000	4,699,543	257,457
保険料支出		8,000	83,784	△ 75,784
諸謝金支出		50,000	0	50,000
租税公課支出	※24	570,000	712,854	△ 142,854
負担金支出		150,000	150,000	0
修繕費支出		50,000	156,600	△ 106,600
選挙費用支出		220,000	97,420	122,580
雑支出		1,280,000	1,584,994	△ 304,994
総務委員会支出	※25	450,000	340,986	109,014
利益相反委員会支出	※26	0	84,225	△ 84,225
広報委員会支出(法人会計分)	※27	390,000	145,983	244,017
事業活動支出合計(I b)		126,127,020	128,227,429	△ 2,100,409
事業活動収支差額(I a)-(I b)		4,945,580	10,516,811	△ 5,571,231
II 予備費支出		3,000,000	0	3,000,000
当期収支差額		1,945,580	10,516,811	△ 8,571,231
前期繰越収支差額		56,145,690	85,775,652	△ 29,629,962
次期繰越収支差額		58,091,270	96,292,463	△ 38,201,193

平成26年12月社員総会に提出した予算の事業活動収支の部のみを抜粋して表示している。

- ※1 平成26年度未収会費 89名分、平成27年度会費 6426名分(新入会772名、再入会89名含む)、平成28年度前受会費 1782名分、平成29年度前受会費 2名分。
平成27年度会費を平成26年度中に納入した 1698名分は26年度決算に算入済。平成27年度会費納入率 (8124名 /8389名 96.8%)
- ※2 (株)日本看護協会出版会2口、(株)医学書院・(株)南江堂・(株)へるす出版・ニューヴェルヒロカワ 各1口。会費1口50,000円
- ※3 和文誌の無料公開化に伴い、定期購読の減少を見込んでいたが定期購読者数が想定を上回った。
和文誌35巻 889,920円(136冊)＜会員(32冊)・定期購読(非会員104冊)＞
和文誌バックナンバー 302,400円(104冊)＜定期購読99冊・単発5冊＞
35回講演集 231,540円(125冊)＜定期購読74冊・単発18冊・当日販売33冊＞
講演集バックナンバー32,400円(15冊)＜定期購読9冊・単発6冊＞
- ※4 一般社団法人学術著作権協会より著作権管理業務への支援として。
- ※5 英文誌投稿論文超過ページ課金(投稿規程:筆頭者が非会員の場合は刷り上がりで11頁を超えたものについて1頁1万円を課金)
- ※6 参加者を3,000名(事前1,850名、当日1,150名)と見込んでいたが、実際には3,736名(事前2,492名、当日1,244名)の参加があった。
- ※7 編集業者および、電子投稿・査読システムの変更に伴う移行費用、引継ぎ費用により予算を上回った。編集事務費448.2万円、システム導入費 64.7万円、査読者に対する新査読システム説明会 19.8万円。
- ※8 WILEYへの支払いは予算979万円に対して846万円であった(133万円減)。平成26年は投稿数が290編であったが、平成27年度は307編の投稿があり編集経費がかかった。
- ※9 査読者へ学術集会前日に新査読システムの説明会を行なったため、セミナー経費が削減された。
- ※10 本項に予算計上していたセミナー開催費をJANSセミナー等開催費に科目変更した。
- ※11 世界看護科学学会(WANS)第4回学術集会(Hannover)への旅費4名分を予算計上したが、本会からは1名のみ支出。
- ※12 理事会の決定に基づき看護用語の維持管理システムの運用及び専用ホームページ立ち上げを行わなかった。該当する費用をWeb調査に充当する予定であったのが、学会のシステムを無料で利用できたために、予算47万円が未使用となった。委員会メンバー交代により旅費が35万円減少した。
- ※13 委員会メンバーの交代により旅費が減少。講師謝金(2万円)がなかったこと、委員会開催時の経費節約により予算を下回った。
- ※14 活動費用(5.6万円)と助成金支出(70万円)を分けて明記。
災害寄付金の目標金額 50万円のところ 6万円だった。助成金額(70万円)は前期繰越金(71.8万円)から支出した。
- ※15 第7回JANSセミナーは、大学で開催のため会場費が見込みより30万円下回った。経費(委託費・謝金・消耗品費など)も節約。
- ※16 ポスターチラシの送料が予算10万円のところ3.5万円であった。
【広報委員会の活動費のうち、公益目的事業(市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェなど)に携わる経費を事業費に計上】
- ※17 開催日当日の費用が節減された。
- ※18 講演者16名中9名が会員であり旅費の支払いがなかったため予算を下回った。また、委員会を大学で開催することにより交通費が抑えられた。
- ※19 講演集閲覧用アプリの導入費用(74万円)を含む。
事前参加申込者の増加に伴い印刷部数を3200部から3460部に増刷した。1冊あたりの印刷費を1000円と見込んでいたが、演題数の増加に伴いページ数が増えたため1500円となり約200万円支出が増加した。
- ※20 演題件数の増加に伴い演題処理・講演集原稿製作費用、映像・音響オペレーター費用、事前参加者受付費用などが予算を約200万円上回った。運営委託業者の業務管理費 250万円(請求金額全体の7%)を委託費に計上。
- ※21 講演者の過半数(16名中9名)が会員だったため、謝金規定により支払い金額が少なくなった。
- ※22 正職員1名の退職により給与・賞与・福利厚生費が減少。退職給付支出は予算を上回った。
- ※23 弁護士顧問料等(64万円)＜契約前法律相談6万円、契約後顧問料26万円(H27年8月～H28年3月)、就業規則作成32万円＞、人材派遣料(1名:59万円/2ヶ月)、正職員募集広告料(43万円)については予算を組んでいないため予算を上回った。
- ※24 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入)に関わる法人税および法人事業税は0円、法人住民税約7万円(均等割分のみ)。消費税課税売上高(学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など)に係る消費税(原則課税方式)。
- ※25 【これまで事業費に計上していた、総務委員会活動費は公益認定上の区分に準じて管理費に計上】
- ※26 予算立案時に未設置であったため予算を組んでいなかった。委員会を1回開催。
【利益相反委員会活動費は、公益認定上の区分に準じて管理費に計上】
- ※27 委員会メンバーの交代、メール会議の複数回開催により旅費(22万円)が節減された。
【広報委員会の活動費のうち、委員会開催費(会議費・旅費交通費)は管理費に計上】

災害看護支援事業収支報告書（平成27年度）

平成28年3月31日 現在

（単位；円）

項 目		金 額	
前年度より繰越 計		718,438	
繰越内訳	災害看護支援資産 ※1	718,438	
収入合計		60,034	
①災害看護支援寄附金収入		60,000	
《内訳》	団体 【詳細は下記】	1件	50,000
	個人	1名	10,000
②預金利息		34	
支出合計 【詳細は下記】		2件	700,000
《内訳》	災害看護支援事業助成金支出	700,000	
単年度残高		(639,966)	

災害看護支援口（積立金）口座残高（平成28年3月31日現在） ※3		78,472	
《内訳》	三菱東京UFJ銀行	78,472	
	ゆうちょ銀行	0	

※1 災害看護支援資産 災害看護支援事業のための寄付金が財源となっている。

平成27(2015)年度

《寄付金収入 団体名》

納入日	団体名	金額
2015年10月15日	高知女子大学看護学会	50,000

《助成支援 事業名》

代表者名	事業名	助成金額
山本 由子	被災高齢者への継続的な健康維持支援プログラムの検討	350,000
中井 寿雄	医療処置を要する在宅療養者と支援者が共同で備えをするための「災害備えチェックシート」の開発 ー生命維持のために医療機器を要する在宅療養者の災害に対する備えの実態ー	350,000
		2 件 700,000

独立監査人の監査報告書

平成28年5月2日

公益社団法人日本看護科学学会
理事長 萱間 真美 殿

牧真之介公認会計士事務所

公認会計士 牧 真 之 介 (印影省略)

<財務諸表監査>

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの平成27年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成28年3月31日現在の平成27年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本看護科学学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査報告書

公益社団法人日本看護科学学会

理事長 萱間 真美 様

平成 27 年(2015 年)4 月 1 日から平成 28 年(2016 年)3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表(貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録)および収支計算書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 28 年(2016 年)5 月 6 日

公益社団法人日本看護科学学会

監事 阿曾 洋子 (印影省略)

監事 南 裕子 (印影省略)

第 2 号議案

災害看護支援事業資金の取崩について

公益社団法人日本看護科学学会（以下、JANS）は、日本看護系学会協議会（以下、JANA）と連携して、国内外で災害が発生した際に行われる看護活動を支援するために、災害看護支援事業専門委員会を組織し、平成 23 年 4 月から災害看護支援事業を行ってまいりました。

しかしながら、JANA が法人化したこと、さらに災害時に各学会が独自で迅速な災害看護支援活動を行う体制が整ってきたことなどにより、JANS 災害看護支援事業専門委員会では、平成 27 年度をもって JANA との連携による「災害看護支援金による助成事業」を終了することを JANS 理事会へ提案し承認を得ました。この決定を JANS 理事長より JANA 理事長へ申し入れましたところ、平成 28 年 4 月に JANA 理事会の承認を得ました。

これに伴って、JANS が窓口となって行ってきました募金活動も終了したいと考え、預金残高につきましては平成 28 年度熊本地震の復興に役立てていただきたいと考えました。災害看護支援事業資金取扱規程第 6 条の規定に則り、募金口座の残金取崩について以下のとおり提案いたします。

口座名 : 日本看護科学学会災害看護支援事業

口座残高 : 78,472 円 (平成 28 年 6 月 13 日現在)

取崩額 : 上記口座残高の全額

取崩後の支出先 : 公益社団法人熊本県看護協会へ全額寄付

災害看護支援事業資金取扱規程

第 6 条 災害看護支援事業資金は、社員総会の決議により、災害看護支援事業資金の全部又は一部を取り崩すことができる。

* 「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」により、公益法人からの寄付は公益法人に限って認められる。

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律

(公益認定の基準)

第五条 四 その事業を行うに当たり、株式会社その他の営利事業を営む者又は特定の個人若しくは団体の利益を図る活動を行うものとして政令で定める者に対し、寄附その他の特別の利益を与える行為を行わないものであること。ただし、公益法人に対し、当該公益法人が行う公益目的事業のために寄附その他の特別の利益を与える行為を行う場合は、この限りでない。

第3号議案

名誉会員の承認について

名誉会員についての定款上の規程

第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

- 2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。
- 3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第14条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

- ① JANSの学術集会会長、国際学術集会会長を務めた。
- ② JANSの理事長、もしくは理事を通算3期以上務めた。
- ③ ①、②に相当の働きをしたと理事会が認めた。
- ④ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をしたもの。

2) 本人の同意があること

	近藤 潤子 氏
会 員 歴	1981年7月25日～現在（通算35年）
学術集会会長歴	第6回日本看護科学学会学術集会会長（1986年）
役 員 代 議 員 歴	発 起 人 1980年～1981年 理 事 長 1981年～1983年、1987年～1989年、1990年～1992年 監 事 1999年～2001年、2002年～2004年、2011年～2015年 評 議 員 1981年～1983年、1987年～1989年、1990年～1992年、 1999年～2001年、2002年～2004年 代 議 員 2007年～2011年、2011年～2015年

	矢野 正子 氏
会 員 歴	1993年7月31日～現在（通算23年）
学術集会会長歴	第19回日本看護科学学会学術集会会長（1999年）
代 議 員 歴	評 議 員 1999年～2001年、2002年～2004年 代 議 員 2007年～2011年、2011年～2015年